

千葉県海業推進基本構想 (案)

千葉県農林水産部水産局水産課

令和7年 月

目次

1 海業推進の背景	
(1)構想策定の趣旨	1
(2)海業の定義	3
(3)海業の全国での展開	4
(4)国の海業振興に係る動き	7
(5)海業と県上位計画との関係性	11
2 現状分析	
(1)千葉県の概要	12
(2)千葉県の漁業	13
(3)千葉県の漁港	15
(4)千葉県の地域資源	16
(5)千葉県の海業取組状況	22
(6)地域別の現状分析	23
(7)千葉県の特徴整理	47
(8)千葉県全体の課題	49
(9)地域別の課題	50
3 目指す姿	
(1)千葉県全体の海業推進に向けた基本方針	51
(2)海業の推進により目指す県の将来像	52
4 今後の取組	
(1)県内各地域の取組方針の概要	53
(2)地域別の取組方針	54
(3)取組例に対する効果検証	62
(4)千葉県における海業の推進体制	70

1 海業推進の背景

(1)構想策定の趣旨

近年、海洋環境の変化等による漁獲量の減少という大きな社会の流れの中で、全国的に水産業を基幹産業とする漁村では高齢化の進行、人口の流出等により、漁村の活力が低下してきており、従来の漁業中心の振興策では、対応が困難な地域が多くなってきている。

一方、漁村は新鮮な水産物や豊かな自然環境等の多くの地域資源を有しており、これらの価値や魅力を活かした「海業」の推進により、漁村のにぎわいを生み出し、地域の所得向上と雇用機会の確保を図ることが期待されている。

特に漁港は、狭隘な漁村において静穏な水域と事業用地が確保され、海洋資源の利活用を行いやすく、近年の消費者が求める「モノ消費」から「コト消費」を実践していくことが可能と考えられており、海業の展開を図ることで、人々が漁港を訪れ、様々な体験を通じて水産業への理解とともに水産物の消費の増進につながることを期待される。

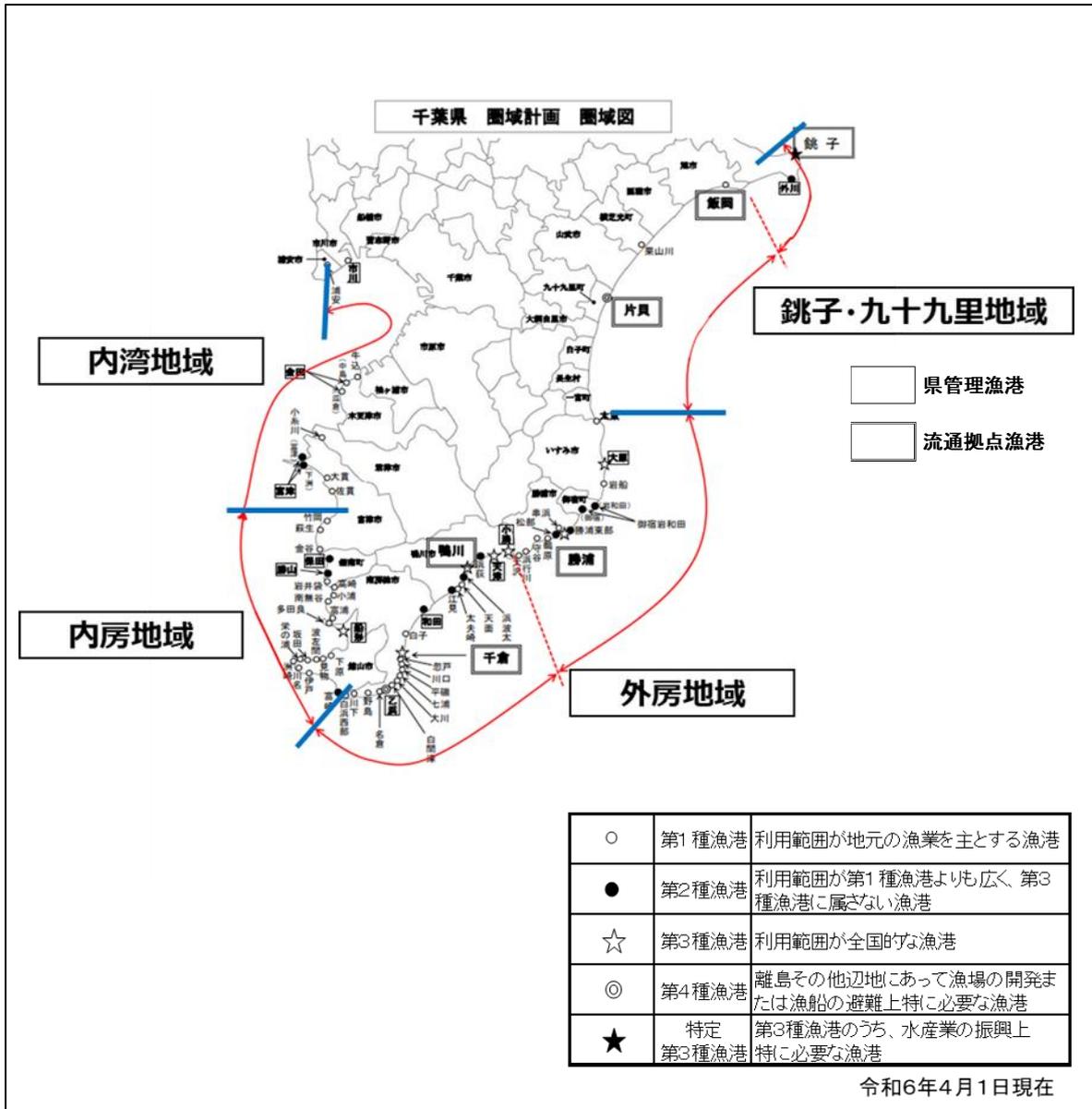
水産庁では令和4年3月に閣議決定された水産基本計画及び漁港漁場整備長期計画において、「海業の振興」を位置付け、漁港を海業に利活用するための仕組みを検討していくことを明記し、地域の理解と協力の下、水産物の消費増進や交流促進など、地域の水産業を活性化する海業の取組を促進している。また、漁業の根拠地である漁港について、その有する価値や魅力を活かし、「海業」を推進し、水産物消費の増進や交流人口の拡大を図るとともに、漁港において陸上養殖の展開等の漁港機能の強化を図るため、漁港漁場整備法及び水産業協同組合法の一部改正が行われた(令和5年5月26日公布)。

海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する海業は、古くから各地の漁村で取り組まれており、千葉県においても、既に内湾や内房地域で漁協の食堂事業等が盛んである。

しかし、千葉県全体で効率的に海業を推進していくためには、各漁村地域が持つ多様な地域資源や交通アクセス性、にぎわいを創出するにあたってのターゲット層の設定等、各地域の現状を踏まえ、前述の法改正による制度の活用を意識したうえで、地域の特色にあった海業を進めていくことが求められる。

こうした状況を鑑み、千葉県内を4地域(内湾、内房、外房、銚子・九十九里)に分け、その特性を踏まえた上で、各地域の海業の展開の可能性を整理し、目指す姿として基本構想を策定する。

4地域の範囲区分図



(千葉県・圏域総合水産基盤整備事業計画)

地域	範囲
内湾地域	浦安市から富津市北部に至る範囲
内房地域	富津市南部から館山市に至る範囲
外房地域	南房総市白浜町からいすみ市に至る範囲
銚子・九十九里地域	一宮町から銚子市に至る範囲

(2)海業の定義

「海業」は古くからある言葉で、1985 年に、三浦市の市長が「漁業を取巻く環境は非常に厳しい。多角的経営をせざるを得なくなっており、海とどうかかわっていくのか、”海業“を考える時代に入っている」と語ったことが最初だと言われている¹⁾。三浦市では、『海の生業』を総じた言葉であり、水産業を核に商業、観光、工業などあらゆる分野を結び付けた複合的産業としている²⁾。また、東京海洋大学の婁教授(2013)は、海業を「国民の海への多様なニーズに応じて、水産資源のみならず、海・景観・伝統・文化などの多様な地域資源をフルに活用して展開される、漁業者を中心とした地域の人々の生産からサービスにいたるまでの一連の経済活動の総称」とし、食料市場をターゲットとする漁業と異なり、海業はさらに「余暇市場、教養・文化市場等」「対象市場のすそ野は広い」としている³⁾。

2009 年に出された「漁村活性化のあり方について 中間とりまとめ」⁴⁾では、漁村活性化の方向性を「訪れたい漁村」「働きたい漁村」「暮らしたい漁村」とし、「訪れたい漁村づくり」「働きたい漁村づくり」において「海業の振興」を取組として挙げている。この時、海業は「所得機会の増大を図るため、漁村の人々が、その居住する漁村を核として、海や漁村に関する地域資源を価値創造する取組」としている。

そして、水産庁の策定した漁港漁場整備長期計画(R4～R8)では、今後 5 年間に取り組むべき 3 つの重点 課題の一つとして、『「海業(うみぎょう)」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上』を挙げている。ここでは、海業を「海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業をいい、国内外からの多様なニーズに応えることにより、地域のにぎわいや所得と雇用を生み出すことが期待されるもの」と定義した。

- 1) 三浦市役所、株式会社三浦海業公社『三崎フィッシャリーナ・ウォーフ 20 周年記念誌』、令和 3 年 12 月
- 2) 吉田英男三浦市長講演「海業の誕生と発展」、笹川平和財団海洋政策研究所「海洋フォーラム『漁港の活用を通じた海業創出と地域活性化』」、令和 4 年 9 月 28 日開催
- 3) 婁小波『海業の時代』社団法人農山漁村文化協会、2013 年
- 4) 漁村活性化のあり方検討委員会「漁村活性化のあり方について 中間とりまとめ」(https://www.jfa.maff.go.jp/j/study/bosai/pdf/0708_07.pdf)

(3)海業の全国での展開

既存資料を基に、海業の代表的な業態ごとに事例を整理し、全国での展開内容についての把握を行った。

全国での海業の取組を把握するため、過去の調査結果等から抽出し、整理をした。参照した資料は以下のとおり。

参照資料名	概要
有効活用事例集 (令和3年8月・水産庁HP)	漁港施設の有効活用に関する情報や背景、制度を紹介するとともに、民間事業者が有効活用を実施する場合における留意すべき点について解説したもの。 また、漁港施設の有効活用に先進的に取り組む全国35事例について、別冊「有効活用事例集」として取りまとめている。
海業の取組事例集 (令和5年8月・水産庁HP)	これまで既に漁港で行われている各地の取組のうち一定の効果が発揮されているものや、更に効果の発現が期待されるもの、先進的取組等について取りまとめられたもの。

事例から、海業の分類として活用する地域資源、人々の行動分野をもとに、様々な分野を網羅できるよう、以下の6つの取組を整理した。

			行動分野（所得機会）					
			水産業	飲食	購買	レクリエーション	学び・体験	宿泊
活用する地域資源	空間資源	沿岸域空間 (海・砂浜・景観等)	漁業			マリンスポーツ 海水浴等	フットパス エコツアー	ホテル
		漁港・漁村空間	養殖			プレジャーボート クルージング	漁業体験	漁家民宿
	水産資源	加工	レストラン	直売所 (加工)	釣・遊漁案内業 潮干狩り			
		漁村文化				漁村観光	漁村体験 (番屋・祭等)	

分野	モデル地区	漁港名	活動
飲食・購買（加工）	静岡県 沼津市	内浦	・レストラン（漁協直営 いけすや） ・直売所（加工品等）
宿泊・体験	福井県 小浜市	内外海（阿納地区）	・釣り～魚さばき～試食体験 ・シーカヤック体験 等
プレジャーボート係留・保管	広島県 福山市	横田	・プレジャーボート係留・保管
レクリエーション・体験	岩手県 田野畑村	机	・サッパ船クルーズ ・番屋ツアー ・漁業体験（塩づくり、釣り体験等）
飲食・購買・レクリエーション・体験	兵庫県 姫路市	坊勢	・定置網見学 ・BBQ・食堂 ・マリンスポーツ（カヌー等）
飲食・購買	和歌山県 有田市	箕島	・BBQ施設 ・直売所（食材販売）

◆魚食レストラン(青空食堂から常設食堂へ)

○静岡県沼津市いけすや

- ・漁業者の生活を守り、地域存続の危機を打開するため、内浦漁協は出荷量が日本一の内浦の養殖アジを使った食堂事業を実施。
- ・祭りイベントでの食事提供から日曜日限定の市場食堂、常設の食堂へと発展。行列のできる有名店となった。



◆魚食体験(釣体験+さばき体験+魚食)

○福井県小浜市ブルーパーク阿納

- ・阿納で養殖した鯛を釣ることができる釣り体験施設(海上釣堀)、バーベキュー施設、魚のさばき体験(食事)ができる調理施設を有する交流施設。
- ・阿納集落(20世帯)のうち14世帯で構成する小浜市阿納体験民宿組合が運営。閑散期であった春・秋に教育旅行を受け入れ、新たな集客を確立することで、民宿経営の安定化を図った。



◆プレジャーボート保管

○広島県福山市 横田シップステーション

- ・漁船の利用頻度が比較的少ない地区に漁港内のプレジャーボートを集約。プレジャーボート用の浮棧橋、駐車場等を整備し、「横田シップステーション」とし、平成29年6月に供用を開始した。
- ・浮き棧橋の整備を漁協が行い、県に占有料を納付している。



<https://jfyokoshima.com/>

◆漁船クルーズ

○岩手県田野畑村 北山崎サツパ船アドベンチャーズ

- ・ウニ漁などに使用する小型の磯舟「サツパ船」を現役の漁師が操縦し、大型船では入れない洞窟や岩穴を巡るツアーを実施。
- ・2004年当時 350人/年程度だった参加者は、2014年には6100人/年へ増加。



<https://www.vill.tanohata.iwate.jp/kankou/see/sappa-adventures.html>

◆漁業見学・体験

○兵庫県坊勢漁協

- ・最新式の高性能な船舶レーダーや海底地形図を映し出すソナーなど、様々な機器を搭載した漁業見学専用の船(漁協所有)に乗船し、季節に応じた漁業を見学できる。
- ・市場のある妻鹿漁港から出港するため、漁業見学与市場でのBBQ、食事等を組み合わせたプランや、カヌー、島内見学等の体験があり、集客を図っている。



<https://boze.or.jp/tour/>

◆直売所+海鮮バーベキュー

○和歌山県有田市箕島漁港 浜のうたせ

- ・有田箕島漁業協同組合が直営する直売所に隣接する。2023年4月から11月末まで試験運用。
- ・食材は直売所で購入する(持ち込み不可)。
- ・施設は試験運用である為、直売所の駐車場を利用した簡易的な店舗。
- ・タレやお皿、箸などはセルフ式でスタッフは案内・炭の準備・退店後の片付のみとシンプルな業務形態。



<https://iko-yo.net/facilities/176092>

(4) 国の海業振興に係る動き

◆「漁港施設等活用事業」について

水産庁は、漁港漁場整備法の改正に伴い、令和 6 年 4 月 1 日から計画的に漁港を海業に活用する「漁港施設等活用事業制度」の運用を開始した。

「漁港施設等活用事業」とは、漁港の漁業上の利用に配慮しつつ、漁港施設、漁港区域内の水域、公共空地を活用し、当該漁港に係る水産業の発展および水産物の安定に寄与する事業を実施するもの。

事業内容は、①水産物の消費の増進に関する事業(水産物の販売や料理の提供等)②交流の促進に関する事業(遊漁、漁業体験活動、海洋環境に関する体験活動等)などが対象となる。

これまで例外的に行われてきた漁港の活用は、法律上の事業としての位置づけを得て、その意義やあり方が明確となった。

漁港管理者は、「漁港施設等活用事業」を実施させる場合、農林水産大臣が示す基本方針に即して、「活用推進計画」を策定する。

これは、地域の水産業に裨益する事業の内容、活用を図る区域、漁業利用に支障を及ぼさないための措置等を定めた漁港利用のフレームを示すものであり、漁業者等の意見聴取といった地域の合意形成のプロセスも法定される。

このことで、漁港の活用に当たって必要となる利用調整の考え方や合意形成の手続が明確となり、民間事業者の参入が検討しやすくなる。

「事業を実施しようとする者」は、「活用推進計画」に基づき「実施計画」を作成し、漁港管理者から「認定」を受けて事業を実施する。その際、事業者は、漁港管理者の認定を受けた計画に基づき、長期安定的に事業を実施することが可能となる。

具体的には、①漁港施設(行政財産)の貸付:国有財産法や地方自治法で原則貸付が禁止されている行政財産について、最大 30 年間の貸付を受けることが可能。②漁港区域内の水域・公共空地の長期占用:通常 10 年間の占用しか許可されない水域や公共空地について、最大 30 年間の占用が可能。③漁港水面施設運営権(みなし物権)の取得:水面を占有する際、遊漁や漁業体験活動などその水面固有の資源を利用する事業を実施するために施設を設置し、運営する場合、第三者への対抗要件や妨害排除請求権等を有し、抵当権の設定も可能な排他独占的な権利(最大 10 年で更新可)を取得することが可能となる。

漁港施設等の活用方法について

根拠 及び手段	漁港管理条例	漁港及び漁場の整備等に関する法律			
	占用の許可	認定計画に基づく 貸付け (法第42条～44条) 【新制度】	占用の許可 (法第39条)	認定計画に基づく 占用 (法第42条・43条) 【新制度】	認定計画に基づく 漁港水面施設運営権の設定 (法第48条・50条) 【新制度】
活用対象					
1) 漁港施設 (行政財産)	△ ・最大10年 (一時的・例外的)	○ ・最大30年 (漁港施設等活用事業) ※借地借家法に基づく 対抗力有り	—	—	—
2) 漁港の区域内の 水域	—	—	△ ・最大10年 (一時的・例外的)	○ ・最大30年 (漁港施設等活用事業)	○ ・最大10年(更新可) (漁港施設等活用事業のうち 交流促進事業の一部) ※第三者への対抗力有り ※抵当権の設定可 ※補償金の規定あり
3) 漁港の区域内 の公共空地	—	—	△ ・最大10年 (一時的・例外的)	○ ・最大30年	—

7

(水産庁 HP)

https://gyokou.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/02/session2024_3.pdf

◆「漁港協力団体」について

1. 漁港協力団体とは

漁港管理者が、後述の 2 に記載した業務を適正かつ確実に行うことができると認められる法人等を、その申請により、漁港及び漁場の整備等に関する法律に基づき漁港協力団体として指定した団体。漁港協力団体に指定されることにより、漁港協力団体は自らの業務を行うために必要な漁港の区域内の水域、公共空地の占用許可に係る特例を受けることができる。

2. 漁港協力団体の業務内容

漁港協力団体が行う業務内容は以下の通り(その一部でも構わない)。

業務	想定される具体的内容(主なもの)
漁港施設の維持若しくは保全 漁港区域内の水域若しくは公共空地の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・岸壁等の漁港施設の点検、修繕 ・清掃・美化活動 ・漁港内の流木やがれきの撤去 ・漁港施設が予定外の使用方法により損傷・汚損しないようにするための漁港施設の適正な利用案内 ・放置艇や不法投棄等の監視、等
漁港の維持管理若しくはその活用の促進(以下「漁港の維持管理等」という。)又は漁港の発展に関する情報又は資料の収集及び提供	<ul style="list-style-type: none"> ・漁港における再生エネルギー導入可能性に関する情報収集 ・漁港に関するパンフレットの作成及び配布、等
漁港の維持管理等又は漁港の発展に関する調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ・漁港の水質調査、環境調査 ・歴史的建造物の調査、等
漁港の維持管理等又は漁港の発展に関する知識の普及及び啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・漁港の見学ツアーの開催 ・漁港の歴史や利用に関する座学の開催 ・漁港の水質調査等に関する報告会 ・釣りのルール、マナー安全対策等の啓発活動、等
上記の業務に附帯する業務	-

3. 漁港協力団体の指定を受けることのメリット

漁港協力団体が自らの業務を行うために必要な漁港の区域内の水域、公共空地を占有する際、漁港管理者との協議が成立することをもって、占有の許可があったものとみなされ、手続きの簡素化が図られる。

また、法律に基づいて指定された漁港協力団体として活動を行うことにより、漁港管理者等との間に緊密な関係が構築され、相互の協力体制が構築されることが見込まれ、漁港における活動の円滑化・活性化が期待される。

(水産庁 HP)

https://www.jfa.maff.go.jp/j/keikaku/gyoko_kyoryoku.html

◆「沿岸漁場管理制度」について

1. 沿岸漁場管理制度とは

沿岸水域における赤潮監視、漁場清掃等の保全活動は、それ自体が収益を生むものではないが、将来にわたって良好な漁場を維持し、沿岸水域の漁業生産を増加させていく観点から、以前から漁協が組合員のための事業として実施している。

他方、組合員の減少や高齢化、新規参入等により組合員以外の漁場利用者が増加した場合、組合員による負担を前提とした漁協の活動だけでは限界が生じてくる可能性がある。また、一部の漁協では参入した企業等から漁場管理のために協力金を徴収しているが、根拠が不透明との指摘もある。

このため、漁協等が、構成員以外を含め漁場を利用する者が広く受益する保全活動を実施する場合に、都道府県がその申請に基づいて指定し、一定のルールを定めて沿岸漁場の管理の業務を行わせることができる仕組みが新たに創設された。

2. 沿岸漁場管理制度の概要

- 都道府県知事は、海区漁場計画に基づき、保全活動を実施する漁場ごとに漁協等からの申請により、海区漁業調整委員会の意見を聴いて沿岸漁場管理団体として指定
- 指定された漁協等は、沿岸漁場管理規程を定め、都道府県知事の認可を受ける
- 沿岸漁場管理規程には、保全活動の目標や内容、費用の見込みに関する事項（構成員以外から協力を求める場合は、その算定根拠や用途等を含む）等を規定
- 漁協等は、沿岸漁場管理規程に基づいて保全活動を実施

3. 実施にあたっての配慮

- ・保全活動は、都道府県が漁業者等の意見を聴いて実施する必要があると判断した場合に、漁場計画に定めた上で、実施するもの。
- ・実施する団体の指定も、その申請によることとしている。
- ・漁場の保全活動を沿岸漁場管理制度によらず漁協の自主的な活動として行う場合には、従前どおりに実施することができる。

（平成 30 年度水産白書）

https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/h30/attach/pdf/30suisan_1.pdf

(5)海業と県上位計画との関係性

千葉県の上位計画において、海業に関連する内容は、以下のように位置付けられている。

◆千葉県総合計画(令和4年3月策定)

○基本理念

「～千葉の未来を切り開く～ 『まち』『海』『緑』『ひと』がきらめく千葉の実現」

○基本構想(10年後の目指す姿)

(農林水産分野)

- ・スマート農林水産業の進展や生産性の向上、消費者ニーズに基づく販売促進などにより、農林水産業が魅力ある力強い産業に育っている

◆千葉県農林水産業振興計画(令和4年3月策定)

○基本方針

「力強く、未来につなぐ 千葉の農林水産業」

○部門別戦略(水産・海面漁業)

(目指す姿)

- ・豊かな自然環境、四季折々の新鮮な水産物やこれを生かした水産加工製品、海の伝統文化、海洋レクリエーションといった本県の有する様々な地域資源が活用され、漁村地域の活力が創出されている

◆地域水産業振興方針(令和4年3月策定)

○多面的機能の発揮の促進

- ・地域資源に関する情報を発信することにより、漁村に都市住民や県民の来訪を増やし、雇用の創出や漁家所得の向上などを通じた漁村の活性化を図る
- ・地域の漁業実態に合わせた漁港機能の再編・集約等により空いた漁港の水域等を水産資源の増養殖利用、直販施設及びプレジャーボート等の受入れに活用するなど漁港の有効活用による漁村の活性化を推進する
- ・藻場・干潟の保全、海難事故防止、ノリスき体験等、水産多面的機能の発揮に取り組む漁業者グループを支援する
- ・漁業と調和のとれた海洋再生可能エネルギー発電施設の整備について、関係機関との連携を図る

2 現状分析

(1)千葉県概要

【人口・世帯数】

千葉県の人口は、令和7年1月1日現在 6,273,675人で、全国第6位となっている。人口増加の変遷として、昭和49年に400万人を超え、昭和58年に500万人、平成14年には600万人を突破している。世帯数は、令和7年現在で、2,916,604世帯である。

【自然条件】

千葉県は三方を海に囲まれ、冬暖かく夏涼しい海洋性の温暖な気候である。特に南房総沿岸は、暖流(黒潮)の影響を受け、冬でもほとんど霜が降りない。

【交通状況】

鉄道は東京からJR総武線・JR京葉線・京成線、道路は東京外かく環状道路・東関東自動車道水戸線・常磐自動車道・銚子連絡道路・長生グリーンライン・東金九十九里・九十九里有料道路・首都高速湾岸線・東京湾アクアライン・京葉道路・館山自動車道などでアクセス可能。

空からの窓口として、成田空港があり、国内各地、世界各国からアクセス可能。

東京からの交通状況は以下のとおり

銚子へ 電車で110分、車で130分

勝浦へ 電車で90分、車で110分

館山へ バスで120分、車で110分

【第1次産業】

水揚げ量日本一(令和4年まで12年連続)の銚子漁港(特定第3種)、カツオで有名な勝浦漁港(第3種)など、県内に68の漁港を有している。

落花生・だいこん・日本なしなどが全国1位で、全国でも有数の農業県でもある。

(令和4年生産農業所得統計)

県内各所にある農水産物直売所を通じて、地元の新鮮な農水産物を手軽に購入することができる。

【観光・スポーツ】

三方を海に囲まれ、マリンスポーツが人気の富津岬や66kmにも及ぶ日本最大級の砂浜海岸の九十九里浜など、県内各所でサーフィンや釣り、海水浴など海のレジャーを楽しむことができる。

(2)千葉県漁業

【漁業の概要】

本県は、三方を海に囲まれており、九十九里地域の長大な砂浜域や外房地域の変化に富んだ岩礁域、全国有数の浅海漁場である東京湾など、約 531 キロメートルに及ぶ海岸線は変化に富み、沖合域を交差する黒潮、親潮の影響も受けて、豊かな漁場と多様な水産資源に恵まれている。このような恵まれた自然環境のもと、海域の特性に応じて多種多様な沿岸・沖合漁業が発達するとともに、これら漁獲物を対象とする水産加工業が発達してきた。

【漁業生産の動向】

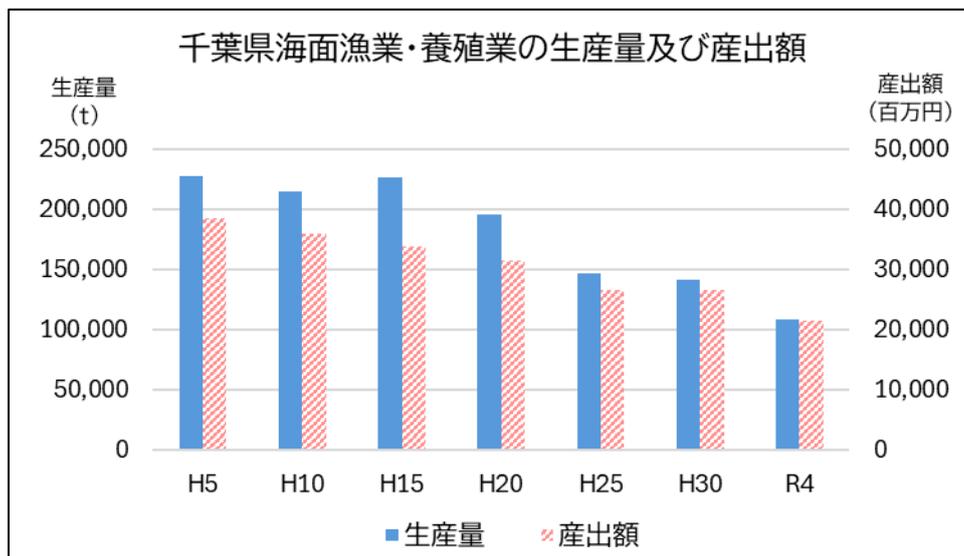
令和 4 年の海面漁業・養殖業の総生産量は全国順位で 9 位と上位に位置しており、魚種別では全国 1 位のスズキ類、キンメダイ、タチウオ、コノシロ、イセエビをはじめ、イワシ類、ブリ類、アワビ類、アサリ類、ノリ類などが全国上位を誇っている。

近年の生産量及び産出額は、海洋環境の変化、水産資源の減少、漁業就業者数の減少、国内消費の低迷等により減少傾向が継続している。

海面漁業・養殖業生産量及び全国順位(令和4年)

単位:t

項目	1位	2位	3位	4位	5位	9位
都道府県名	北海道	茨城県	長崎県	宮城県	静岡県	千葉県
生産量	985,112	285,164	285,016	276,065	149,617	108,251



単位:t、百万円

項目	H5	H10	H15	H20	H25	H30	R4	H5比減少率
総生産量	227,467	215,182	226,313	195,133	147,039	141,310	108,251	52%
総産出額	38,501	35,919	33,862	31,553	26,616	26,626	21,495	44%

(生産量:海面漁業生産統計調査、産出額:漁業産出額)

魚介藻類生産量の全国順位（令和4年・属人）

（単位：t）

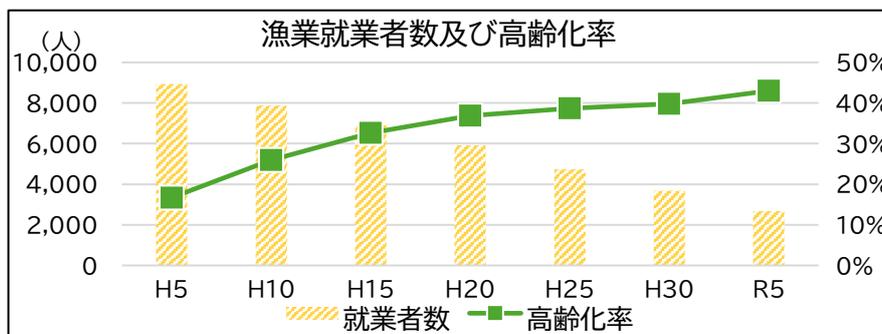
魚介藻類	全国	1位	2位	3位	4位	5位	備考
すずき類	5,169	千葉県 1,082	兵庫県 477	宮城県 382	愛知県 286	福島県 234	
このしろ	3,034	千葉県 1,328	神奈川県 530	熊本県 398	福岡県 134	大阪府 107	
いせえび	1,115	千葉県 238	三重県 163	和歌山県 112	静岡県 106	徳島県 98	
たちうお	6,850	千葉県 1,268	熊本県 728	茨城県 709	長崎県 638	和歌山県 459	
まいわし	641,797	茨城県 238,418	千葉県 61,833	宮城県 52,200	鳥取県 46,016	静岡県 41,064	
ぶり類	93,112	長崎県 10,775	北海道 9,574	千葉県 9,378	島根県 8,922	三重県 6,964	
あわび類	689	岩手県 133	宮城県 90	北海道 70	千葉県 60	愛媛県 36	
あさり類	5,668	愛知県 3,001	北海道 1,620	三重県 306	静岡県 196	千葉県 108	
ひらめ	5,898	北海道 837	宮城県 733	青森県 726	福島県 697	千葉県 348	
かたぐちいわし	123,241	長崎県 26,639	三重県 13,072	大阪府 11,836	広島県 11,668	愛知県 10,489	千葉県(8位) 4,595
さんま	18,384	北海道 8,121	岩手県 2,311	宮城県 2,044	福島県 1,593	富山県 1,582	千葉県(8位) 565
さば類	319,744	長崎県 70,903	茨城県 33,928	宮城県 33,827	北海道 23,770	岩手県 20,924	千葉県(11位) 11,124
のり類(養殖)	232,490	佐賀県 54,415	兵庫県 50,138	福岡県 39,558	熊本県 36,251	宮城県 10,806	千葉県(9位) 4,921

（注）ぶり類は養殖を除く

（令和4年漁業・養殖業生産統計）

【漁業就業者数の推移】

本県の漁業就業者数は、平成5年と令和5年を比較すると、約7割の減少となっており総数が減少する中で高齢化率※は上昇を続け、令和5年では43%に達している。



※漁業就業者数に占める65歳以上漁業就業者数の割合

（単位：人）

区分	H5	H10	H15	H20	H25	H30	R5
就業者数	8,924	7,882	6,929	5,916	4,734	3,678	2,672
高齢化率	17%	26%	33%	37%	39%	40%	43%

（漁業センサス）

このように、本県の水産業は生産量の低下や漁業就業者の減少、高齢化の進行等が続き、厳しい状況に直面している中で、各地で水揚げされる多種多様な水産物を活かした海業の推進により、漁業者の所得向上が図られ、さらに漁村地域が活性化することが期待される。

(3) 千葉県漁港

【漁港の概要】

漁港は、出漁に必要な物資の供給や漁獲物の陸揚げ等に限らず、水産物の流通、販売、加工、貯蔵等の水産業を支える多くの役割を担うほか、漁船係留や避難基地などにも利用されている。

本県には 68 の漁港が立地しており、そのうち県管理漁港は 19 港、市町管理漁港は 49 港で、漁港の種類はおよそ 3 分の 2 を第 1 種漁港が占めている。

区分		1種	2種	3種	特定3種	4種	計
管理者	千葉県	4	5	7	1	2	19
	市町村	42	7				49
計		46	12	7	1	2	68

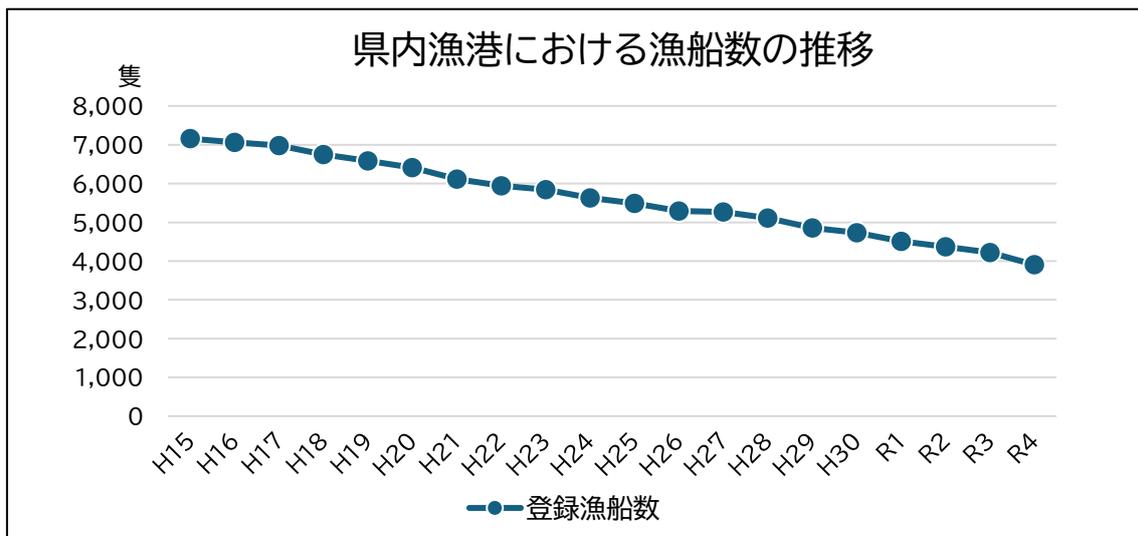
種類	説明
第1種漁港	利用範囲が地元の漁業を主とする漁港
第2種漁港	利用範囲が第1種漁港よりも広く、第3種漁港に属さない漁港
第3種漁港	利用範囲が全国的な漁港
第4種漁港	離島その他辺地にあつて漁場の開発または漁船の避難上特に必要な漁港
特定第3種漁港	第3種漁港のうち、水産業の振興上特に必要な漁港

(千葉県 HP)

【漁港の現状】

県では、漁港の機能の高度化に向けた取組を推進しており、特に第三種漁港をはじめとする水産物の流通拠点としての機能が高い漁港については、高度衛生管理に対応した荷さばき施設の整備等、流通機能の高度化に向けた取組を推進している。

漁業者の減少や高齢化、漁船や水揚量の減少等の理由により、漁港の施設や用地に空きが生じている状況となっている。



項目	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	H15比減少率
登録漁船数	7,158	7,062	6,981	6,750	6,589	6,410	6,116	5,943	5,847	5,626	5,488	5,291	5,269	5,112	4,852	4,730	4,506	4,374	4,225	3,905	45%

(漁港港勢調査)

(4)千葉県地域資源

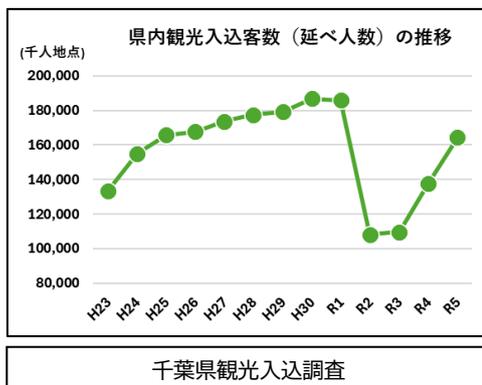
【観光入込客数の概要】

千葉県は、海や山などの多様な自然、新鮮な魚介類や野菜、果物、肉類等の農林水産物や豊かな食文化に加え、集客力の高いテーマパークやレジャー施設、大型商業施設など、多くの観光資源に恵まれている。また、成田空港や東京湾アクアラインにより世界や国内の多くの都市と結ばれていることから、本県を訪れる観光客は多く、統計等を見ても全国的に上位に位置している。

令和5年の観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症の収束により、令和元年の水準に概ね回復してきている。

宿泊者数（全体）			外国人宿泊者数		
（万人）			（万人）		
1位	東京都	9,945	1位	東京都	4,364
2位	大阪府	5,070	2位	大阪府	1,876
3位	北海道	3,963	3位	京都府	1,213
4位	沖縄県	3,288	4位	北海道	713
5位	京都府	3,213	5位	福岡県	504
6位	神奈川県	2,827	6位	沖縄県	448
7位	千葉県	2,777	7位	神奈川県	323
8位	静岡県	2,186	8位	千葉県	322
9位	福岡県	2,112	9位	愛知県	201
10位	愛知県	1,886	10位	長野県	149

観光庁宿泊旅行統計調査 令和5年1月～12月



【観光地点等分類別の観光入込客数】

観光地点等分類別の観光入込客数(延べ人数は)「スポーツ・レクリエーション」が最も多く、次いで道の駅、パーキングエリア等の「その他」、「歴史・文化」の順となっており、本県の多様な観光地点に多くの観光客が訪れている。

○観光地点等分類別の観光入込客数(延べ人数)

(単位:千人地点)

大分類	中分類	小分類（主なもの）	令和4年	令和3年	令和元年	対前年比 (%)	対令和元年比 (%)	令和4年分類別構成比 (%)
観光地点	自然	山岳	2,521	2,076	2,851	21.4	▲ 11.6	1.8
		湖沼						
		海岸						
	歴史・文化	神社・仏閣	19,563	17,294	27,132	13.1	▲ 27.9	14.2
		博物館						
		美術館						
		動・植物園						
		産業観光						
	温泉・健康	温泉地	3,510	2,811	4,558	24.9	▲ 23.0	2.5
	スポーツ・レクリエーション	スポーツ・レクリエーション施設	スポーツ・レクリエーション施設	53,764	38,323	71,532	40.3	▲ 24.8
海水浴場								
公園								
テーマパーク								
都市型観光	商業施設	17,447	16,778	23,811	4.0	▲ 26.7	12.7	
その他	道の駅、パーキングエリア等	29,043	26,952	28,039	7.8	3.6	21.1	
小計			125,849	104,234	157,924	20.7	▲ 20.3	91.4
行祭事・イベント	行祭事・イベント	行・祭事	11,885	5,325	27,974	123.2	▲ 57.5	8.6
		花見						
		花火大会						
		スポーツ観戦						
合計			137,734	109,559	185,898	25.7	▲ 25.9	100.0

○県内4地域別の主な観光地点等への入込客数(延べ人数) (単位:万人地点)

地域名	市町村名	観光地点、 行祭事・イベント名	中分類	小分類	令和4年 (A)	令和3年 (B)	増減 (A-B)
内湾 地域	浦安市	東京ディズニーリゾート	スポーツ・ レクリエーション	テーマパーク	2,209	1,205	1,004
	木更津市	海ほたるパーキングエリア	その他	道の駅、パーキングエリア等	683	697	▲14
	千葉市	パサール幕張(上・下)	その他	道の駅、パーキングエリア等	409	383	26
	千葉市	幕張メッセ(イベントホール・国際展示場)	行祭事 イベント	イベント会場	352	130	222
	千葉市	ZOZOマリンスタジアム	行祭事 イベント	スポーツ観戦	174	75	99
内房 地域	鋸南町	都市交流施設・道の駅保田小学校	その他	道の駅、パーキングエリア等	78	65	13
	南房総市	房総の駅とみうら	その他	道の駅、パーキングエリア等	78	60	18
	富津市	マザー牧場	スポーツ・ レクリエーション	テーマパーク	76	66	11
	南房総市	道の駅とみうら「枇杷倶楽部」	その他	道の駅、パーキングエリア等	54	37	16
	南房総市	道の駅「三芳村」鄙の里	その他	道の駅、パーキングエリア等	37	32	6
	富津市	鋸山ロープウェー	その他	道の駅、パーキングエリア等	35	33	2
外房 地域	鴨川市	鴨川シーワールド	歴史・文化	水族館	107	80	27
	鴨川市	道の駅「鴨川オーシャンパーク」	その他	道の駅、パーキングエリア等	31	24	7
	南房総市	道の駅「和田浦WA・0!」	その他	道の駅、パーキングエリア等	29	14	15
	鴨川市	里のMUJIみんなみの里	都市型観光	その他都市型観光	21	25	▲4
	勝浦市	勝浦海中公園センター	自然	海中	12	8	3
	鴨川市	内浦山県民の森	スポーツ・ レクリエーション	スポーツ・レクリエーション施設	11	5	5
銚子・ 九十九里 地域	旭市	道の駅季楽里あさひ	その他	道の駅、パーキングエリア等	120	113	7
	山武市	道の駅オライはすぬま(物産館・レストラン)	その他	道の駅、パーキングエリア等	86	86	▲1
	一宮町	一宮・東浪見・釣ヶ崎海岸(サーフィン)	スポーツ・ レクリエーション	その他スポーツ・レクリエーション	74	71	3
	匝瑳市	ふれあいパーク八日市場	都市型観光	その他都市型観光	56	59	▲3
	銚子市	銚子電気鉄道株式会社	その他	道の駅、パーキングエリア等	35	30	6

令和4年千葉県観光入込調査報告書(沿岸市町村のみ抜粋)

【観光客の内訳】

観光入込客数のうち、日帰り客が全体の約8割を占めている。

○観光入込客数(実人数)の推計結果 (単位:千人回)

	総数	宿泊客			日帰り客		
		宿泊客 総数	県外客	県内客	日帰り客 総数	県外客	県内客
日本人	101,785	20,960	16,432	4,528	80,824	46,096	34,728
訪日外国人	2,202	608			1,593		
観光入込客 合計	103,986	21,569			82,418		

(令和4年千葉県観光入込調査報告書)

【観光におけるポテンシャル】

このように、本県には全国的に見ても国内外から多くの観光客が訪れていることから、海業推進のためのポテンシャルは十分に有していると考えられる。

また、近年の消費者のニーズは「モノ消費」から「コト消費」へとシフトしているといわれており、直売所やレストランなど新鮮な水産物の消費増進を図る取組に加え、交流促進ではマリンレジャーや漁業体験、宿泊を伴うコンテンツの開発等、漁村地域への周遊と滞在を促す取組等による地域活性化が期待される。

【観光資源の概要】

本県は、三方を海に囲まれ、海や海岸等の豊かな自然・景観、水族館等のテーマパーク、新鮮な農水産物を手軽に購入できる道の駅やアウトレット等の大型商業施設など、多くの観光資源に恵まれている。

こうした資源を有効に活用し、各地で関係者が連携し海業を推進することで、地域活性化に繋がることが期待される。

<p><自然・景観></p> <ul style="list-style-type: none">・三方を海に囲まれており、各地域で様々な海の絶景や自然を楽しむことができる。・銚子市は、日本ジオパークに認定されており、屏風ヶ浦等の海岸線の景観美を称して、「風景言葉に尽くし難し」と言われている。	 <p>屏風ヶ浦</p>
<p>https://www.choshikanko.com/photo/0136/</p>	
<p><水族館等テーマパーク></p> <ul style="list-style-type: none">・鴨川シーワールドをはじめ、かつうら海中公園、ふなばし三番瀬海浜公園等、県内には海洋生物とふれあうことのできる施設が多数立地している。	 <p>鴨川シーワールド</p>
<p><道の駅></p> <ul style="list-style-type: none">・県内には 30 箇所の道の駅があり、新鮮な農水産物を購入することができる。(道の駅数:全国 8 位) (R6 年「道の駅」の登録数国土交通省)・特に房総半島に集中しており、地域ごとに多様なコンセプトの道の駅がある。	 <p>道の駅 保田小学校</p>
<p><大規模集客施設></p> <ul style="list-style-type: none">・東京湾近郊にアウトレットや多目的複合施設などの大規模集客施設が立地している。・アウトレットは国内 31 箇所のうち、3 箇所が県内にあり、その内 2 箇所は内湾地域に立地している。 (R6 年 一般社団法人日本ショッピングセンター協会)	 <p>三井アウトレットパーク幕張</p>

【文化資源の概要】

本県は多様な歴史、文化資源を有しており、各自治体の郷土博物館や民間施設においてそれらを鑑賞・学習したり、祭り等の行事に参加して体感することが可能である。

こうした資源を有効に活用し、各地で関係者が連携し海業を推進することで、地域活性化に繋がることが期待される。

<p><漁業文化></p> <ul style="list-style-type: none">・本県は、海とともに発展してきた地域であり、漁業とその文化が深く根付いている。・漁業の歴史的な営みとして和田の捕鯨や東京湾の簀立て等が今も残っている。	 <p>鯨の解体</p>
<p><祭事・伝統></p> <ul style="list-style-type: none">・県内には、260 を超える伝統文化※¹ が残っており、漁村地域においても、先人たちが築いてきた伝統文化を体感することができる。(R6 千葉県 HP)・白浜海女まつりは、県下最大級の夜祭で、夏の恒例行事となっている。	 <p>白浜海女まつり「夜泳」</p>
<p><食文化></p> <ul style="list-style-type: none">・三方を海に囲まれており、各地域で特色のある魚食文化が伝承されている。・房総半島では、いわし・さば・あじ等が水揚げされるので、なめろうや、さんが焼き等の郷土料理が親しまれている。	 <p>なめろう</p>
<p><博物館></p> <ul style="list-style-type: none">・県内には、約 50 の博物館※² が立地し、歴史、民俗、自然史等について学ぶことができる。(R6 千葉県 HP)・県立中央博物館では、海や漁村の文化、自然等に関する情報を発信を開催している。	 <p>令和 6 年度特別展万祝博覧会 —海をまとう—</p>

<https://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>

※1 祭り等の行事や伝統技術等 ※2 登録博物館、博物館相当施設

【アウトドア・スポーツの概要】

本県は多様なアウトドア・スポーツが盛んであり、来訪者が各地域の海水浴場やダイビング、サーフィン、サイクリング等を体験することが可能である。

サイクリングやサーフンは、市町村を跨いで広がっているため、広域連携の可能性もある。

こうした資源を有効に活用し、各地で関係者が連携し海業を推進することで、地域活性化に繋がることが期待される。

<海水浴場>

- ・18市町村で55箇所の海水浴場が開設されている。
(R6 千葉県 HP)
- ・片貝海水浴場は、広大な白い砂浜と眺めの良さが特徴で、多くの海水浴客が訪れている。



片貝海水浴場

<サーフィン>

- ・九十九里・房総エリアは、サーフィンスポットとして有名で、多くのサーファーが訪れている。
- ・また、房総半島を舞台とした「BOSO サーフィンミーティング」を県が開催しており、サーフィンの魅力を発信している。



「BOSO サーフィンミーティング」

<釣り>

- ・沿岸の堤防や砂浜、磯などの様々な場所から釣りを楽しむことができる。
- ・遊漁船も多く、各地域で特色ある船釣りを楽しむことができる。
- ・館山港が「釣り文化振興モデル港」として国土交通省から指定されている。



遊漁船

<ダイビング>

- ・内房・外房地域では、年間を通じて様々な海洋生物に出会えるなど、魅力あるダイビングスポットとなっている。
- ・都心から近く、日帰りでも楽しむことができるのも魅力となっている。



勝浦ダイビングリゾート

<http://park10.wakwak.com/~katsuura-diving/>

<サイクリング>

・千葉県銚子市を起点に、神奈川・静岡・愛知・三重・和歌山の6県を結ぶ全長 1,487kmの「太平洋岸自転車道」が、令和 3 年 5 月 31 日にナショナルサイクルルートに指定された。



サイクリング

<その他>

・【ゴルフ】

ゴルフ場の数は全国 2 位の 243 箇所を誇る。
(R3 体育・スポーツ施設現況調査)

・【キャンプ】

県内各地の様々なロケーションで楽しむことができる。

・【マラソン】

「ちばアクアラインマラソン」が隔年で開催されている。



「ちばアクアラインマラソン」

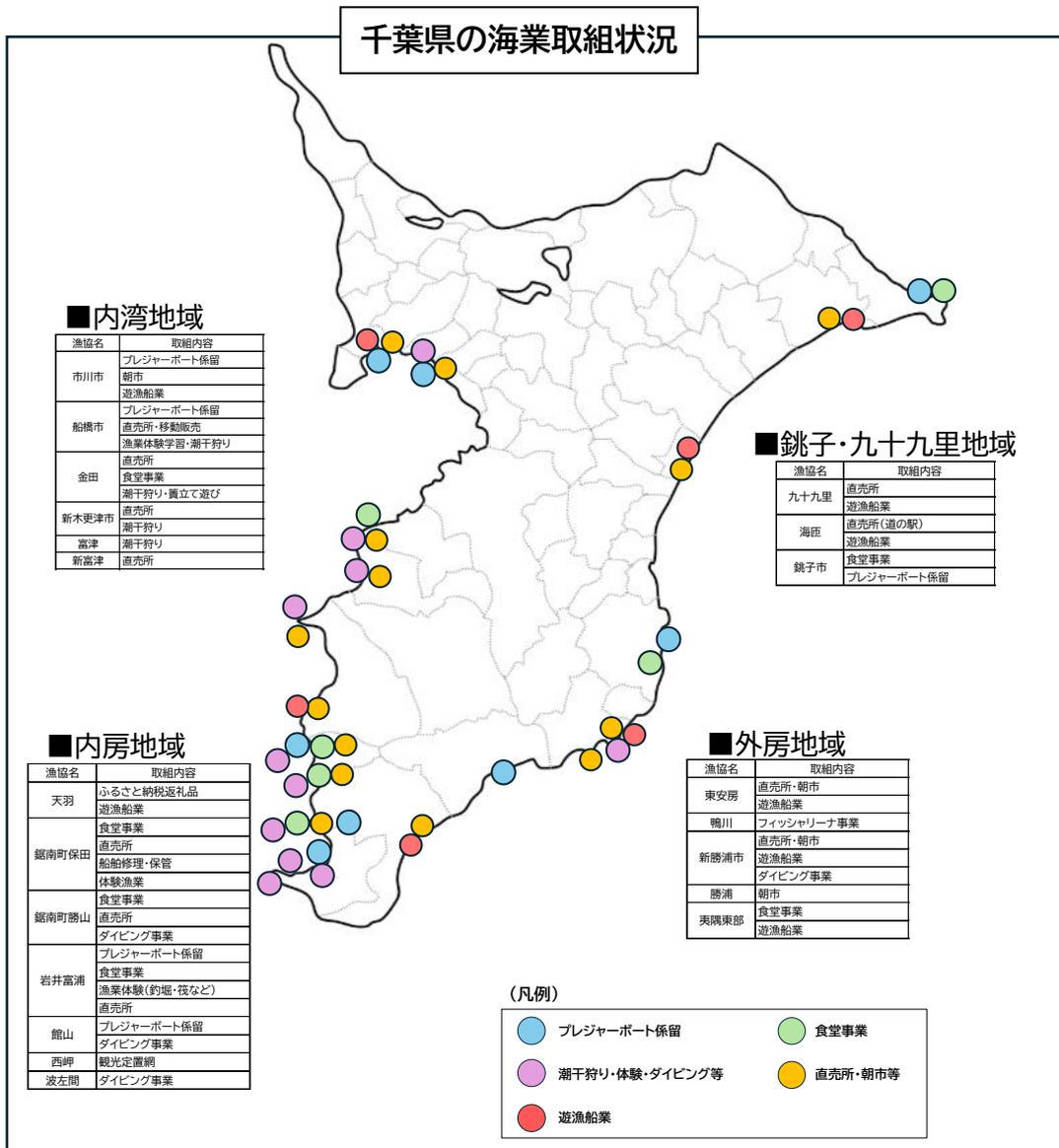
(5)千葉県の実業取組状況

【千葉県の実業概要】

本県では、都市部に近い集客に有利な立地条件や、豊富な水産資源を背景に、従来から潮干狩り場や遊漁船業など、海洋性レクリエーションを提供する事業が展開されてきた。

1990年代以降は、定置網で漁獲される多種多様な漁獲物を活かした漁協直営食堂事業が展開され、地域活性化に寄与してきた。

現在では、県内の多くの地域で様々な事業が展開されている。また、本基本構想におけるアンケート調査では、半数以上の漁協が今後新たに実業に取り組みたいとの意向があることから、更なる展開が期待される。



(6)地域別の現状分析

○内湾地域

【範囲・交通】

内湾地域は、浦安市から富津市北部までの 10 市に至る範囲で、都内から電車・車で 30 分から 1 時間程度でアクセス可能である。また、東京湾アクアラインの利用により神奈川県方面とのアクセスが良好である。



【漁業の概要】

内湾地域には、6 市、8 漁港、7 漁協が立地している。地域内の 8 漁港のうち、第 2 種漁港が 1 港、第 1 種漁港が 7 港と比較的規模の小さい漁港で構成されている地域である。また、本地域には、地方卸売市場がなく、水揚物は現地漁港内での相対取引が中心であることから、拠点漁港は全て生産拠点漁港となっている。

漁港の他に、千葉港(船橋を含む)や木更津港といった港湾についても漁業活動が営まれている。

自治体	漁港	漁協
浦安市	浦安漁港	
市川市	○市川漁港	市川市漁協
船橋市	船橋港(港湾)	船橋市漁協
木更津市	○金田漁港	金田漁協
	牛込漁港	新木更津市漁協
君津市	小糸川漁港	富津漁協／新富津漁協
富津市 (北部)	○富津漁港(富津地区)	富津漁協
	○富津漁港(下洲地区)	新富津漁協
	大貫漁港、佐貫漁港	天羽漁協(大佐和支所)

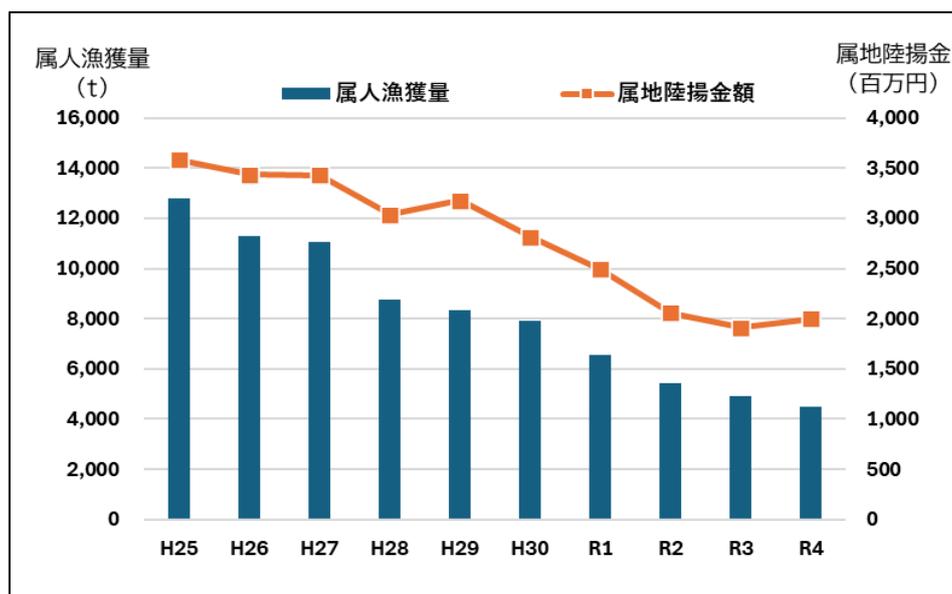
○:生産拠点漁港

令和4年の属人漁獲量(地域内に居住する漁業者の総漁獲量)は、4,492tであり、平成25年の12,801tから約3分の1に減少している。

なお、生産拠点漁港である、富津漁港(第2種)、金田漁港(第1種)、市川漁港(第1種)の3港で地域内の属人漁獲量の約83%と大半を占めている。

上記の3港以外では、すべて500t未満と規模が小さいことが伺える。

属人漁獲量及び属地陸揚金額の推移



(漁港港勢調査)

令和4年の属地陸揚金額は約20億円で、全国でも有数の浅海漁場があり、ノリ養殖業やアサリ等貝類漁業のほか、小型底びき網・まき網・潜水器・アナゴ筒・刺し網等の多様な漁船漁業が営まれており、生産される水産物は「江戸前」として、高く評価されている。

内湾地域の漁業カレンダー

漁法	対象魚種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小型底びき網	スズキ、アナゴ、エビ類						←	←	←	←			
	コウイカ										←	←	←
	ナマコ	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
まき網	スズキ					←	←	←	←	←	←	←	←
	コノシロ	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
のり養殖	スサビリ	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←

(ちばの海で始める漁業就業)

○千葉ブランド水産物認定品(生鮮水産物・水産加工品・ふるさと品)

<p>・三番瀬ホンビノス貝</p> 	<p>・江戸前船橋瞬めすずき</p> 
<p>・大佐和漁協江戸前あなご</p> 	<p>・木更津おかそだちサーモン</p> 
<p>・新富津漁協 江戸前オイスター</p> 	<p>・富津漁協江戸前白ミル</p> 
<p>・手入れ海苔(焼のり)</p> 	<p>・金田産一番摘みあま海苔(焼海苔)</p> 
<p>・金田産焼ばら乾海苔</p> 	

<https://www.pref.chiba.lg.jp/suisan/brand/ninteishina.html>

【地域資源】

内湾地域は、東京湾沿岸の一部に広大な干潟もあり、潮干狩りや簀立て遊び、釣りやウインドサーフィンなどを楽しむことができる。また、戦時中に東京湾の要塞であった「第二海堡」が富津市沖に存在しており、歴史的遺構におけるインフラツーリズムが開催されている。都心近郊エリアには大規模集客施設が多く立地しており、潜在的な集客が期待できる。

その一方で、大規模な集客施設で人の移動が完結してしまい、周辺地域の観光客誘客に結びついていない傾向がみられる。どのようにして周辺地域の観光や地域経済に結び付けるかが課題となっている。

また、都心へのアクセスが良く都市としてのイメージが強く、歴史的・文化的資源や海などの資源を有する「観光地」としてのイメージが希薄である。

○内湾地域の地域資源(例)

○自然・景観	○漁業文化	○祭事・伝統 1	○祭事・伝統 2	○博物館等 1
<ul style="list-style-type: none"> ・広大な干潟 ・東京湾、富士山等の眺望 ・工場夜景 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈養殖 ・簀立て漁 ・投網 	<ul style="list-style-type: none"> ・水神祭 ・浦安の舟大工技術 ・吾妻神社馬だし祭り 	<ul style="list-style-type: none"> ・海神の天道念仏 ・大仏追善供養 ・浦安囃子 ・浦安細川流投網 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県立中央博物館 ・千葉県立美術館 ・浦安市郷土博物館
○博物館等 2	○食文化	○テーマパーク	○アウトドア・スポーツ	○大規模集客施設
<ul style="list-style-type: none"> ・君津市漁業資料館 ・市立市川歴史博物館 ・ふなばし三番瀬環境学習館 	<ul style="list-style-type: none"> ・はかりめ井 ・鉄砲巻き ・海堡井 ・ふうかし 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ディズニーリゾート ・船橋三番瀬海浜公園 ・マザー牧場 ・船橋アンデルセン公園 	<ul style="list-style-type: none"> ・ちばアクアラインマラソン ・ウインドサーフィン ・釣り 	<ul style="list-style-type: none"> ・幕張メッセ ・木更津アウトレット ・海ほたる
○道の駅	○史跡・名勝 1	○史跡・名勝 2	○その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅いちかわ ・道の駅あずの里いちはら ・道の駅木更津うまかつの里 	<ul style="list-style-type: none"> ・加曾利貝塚 ・飛ノ台貝塚 ・堀之内貝塚 ・姥山貝塚 	<ul style="list-style-type: none"> ・曾谷貝塚 ・山野貝塚 ・鬼高遺跡 ・近江屋甚兵衛墓 	<ul style="list-style-type: none"> ・人気アニメの舞台 ・第二海堡 ・各種調理師専門学校 ・屋形船 	

【海業の概要】

船橋市、金田、新木更津市、新富津の 4 漁協が直売所を運営し、地先で水揚げされた新鮮な魚介類や海苔等の加工品を販売している。

市川市漁協では朝市を月に 1 度実施している。

潮干狩りは、金田、新木更津市、富津の 3 漁協で実施しているほか、船橋市では、(公財)船橋市公園協会が実施している。

また、漁業者が簀立て遊びや地びき網体験、遊漁船等を実施している。

<p>市川市漁協</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第1日曜日に市川漁港で朝市を開催。 ・地元特産物のホンビノス貝詰め放題や三番瀬クルーズ船などの体験等を提供 		<p>船橋市漁協</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直売所「三番瀬みなどや」 <p>周辺施設等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふなばし三番瀬海浜公園 	 
<p>金田漁協</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直営食堂「浜っ子」 ・直売所「あま海苔直売センター」 ・潮干狩り場「金田みたて海岸」 	 	<p>新木更津市漁協</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直売所「江川漁協流通センター」 ・潮干狩り場「牛込海岸」、「江川海岸」、「久津間海岸」、「木更津海岸」 	 
<p>富津漁協</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潮干狩り場 	 	<p>新富津漁協</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富津シーサイドマルシェを開催 	 

【今後の海業の取組意向】

県内の 23 漁協に実施したアンケート調査より、海業に取り組みたいと回答があった漁協は 7 漁協中 5 漁協であり、半数以上が取組意向を示している。特に取り組みたい事業として、「水産物の直売」、「水産物を提供する食堂」、「プレジャーボート係留・保管」が多い結果となり、多くの漁協で消費増進（ブランド化や直売・飲食施設）や交流拡大（潮干狩り・プレジャーボートの管理等）の経験や今後の取組意向がある。

今後、新たな活用の検討が必要な施設等について、7 漁協中 6 漁協が「ある」と回答しており、漁業者の減少・高齢化により、空きが生じている漁場や漁港施設等の活用意向がある。

また、7 漁協中 4 漁協が民間企業との連携に関心がある。

近年では、カキ養殖も行われている。

表 海業の取組状況と今後の意向(内湾地域)

○:取組中 ●:休止中 ◎:今後の意向

漁協	養殖	朝市	直売所	食堂	PB	体験	ダイビング等	今後の取組意向	新たな活用の検討が必要な施設等
市川市漁協		○			○			朝市の収益向上	用地（野積場、漁具干場等） 漁具倉庫、製氷施設
船橋市漁協	◎		○	◎	○	○		食堂	係留施設、冷凍・冷蔵施設
金田漁協			○	○		○			
新木更津市漁協	◎		○			○			係留施設、漁具倉庫
富津漁協	◎		◎	◎	◎	○		直売・食堂・PBの係留・保管	係留施設、荷捌所、潮干狩り場
新富津漁協	◎	○	○	◎	◎	◎		カキ養殖事業の拡大等	係留施設、漁具倉庫 用地（野積場、漁具干場等）
天羽漁協 (大佐和支所)					◎	◎	◎	釣り体験、マリンスポーツ等	係留施設、漁具倉庫

○内房地域

【範囲・交通】

内房地域は、富津市南部から館山市までの3市1町に至る範囲で、東京駅から特急、高速バスを利用して2時間程度でアクセス可能である。また、東京湾アクアライン、フェリーにより車でのアクセスが可能。



【漁業の概要】

内房地域には、4市町、21漁港、7漁協が立地している。地域内の21漁港のうち、第3種漁港が1港、第2種漁港が3港、第1種漁港が17港と比較的規模の小さい漁港で構成されている地域である。また、船形、勝山、保田の3漁港が生産拠点漁港に位置付けられている。

地域内の地方卸売市場として、6ヶ所(3市1町)の水産物卸売市場が開設されている。

自治体	漁港	漁協
富津市 (南部)	竹岡漁港、萩生漁港、金谷漁港	天羽漁協 (大佐和支所を除く)
鋸南町	○保田漁港	鋸南町保田漁協
	○勝山漁港、岩井袋漁港	鋸南町勝山漁協
南房総市	高崎漁港、小浦漁港、南無谷漁港、 富浦漁港、多田良漁港	岩井富浦漁協
館山市	○船形漁港、富崎漁港	館山漁協
	伊戸漁港、川名漁港、 洲崎漁港、栄の浦漁港、坂田漁港、 見物漁港、下原漁港	西岬漁協
	波左間漁港	波左間漁協

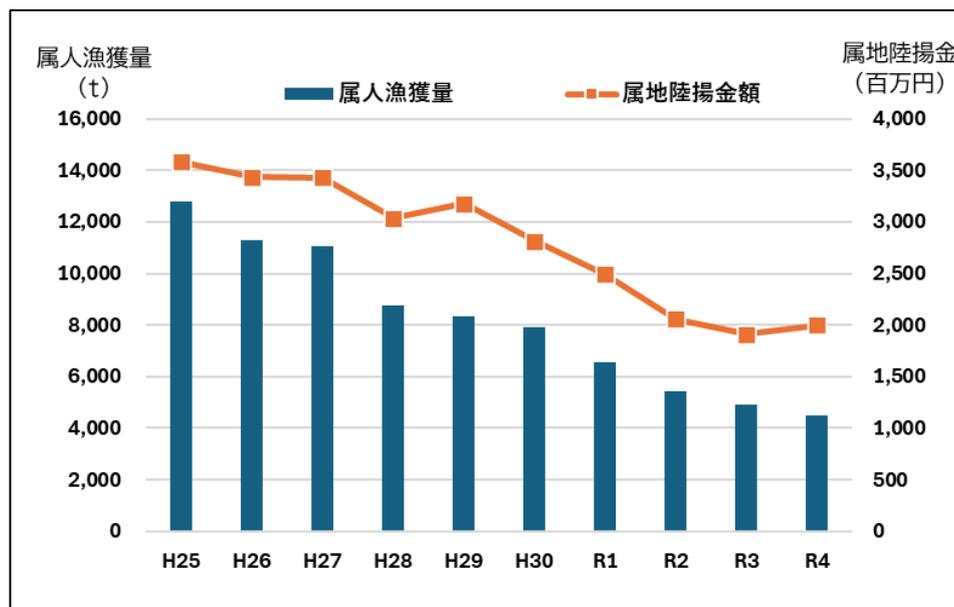
○：生産拠点漁港

令和4年の属人漁獲量は6,769t であり、平成 25年の8,914t から約4分の3に減少している。

なお、生産拠点漁港である、船形漁港(第3種漁港)、勝山漁港(第2種漁港)、保田漁港(第2種漁港)の3港で地域内の属人漁獲量の約47%と大部分を占めている。

上記の3港以外では、500t未満の漁港が16港と規模が小さいことが伺える。

属人漁獲量及び属地陸揚金額の推移



(漁港港勢調査)

令和4年の属地陸揚金額は約26億円で、定置網や刺し網、曳縄等の沿岸漁業・まき網、千葉県伝統漁法でもある火光利用さば・さんま等の沖合漁業が営まれている。また、潮通しが良く静穏な海域特性のため、海面養殖業も営まれている。

内房地域の漁業カレンダー

地域	漁法	対象魚種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
内房	立縄	キンメダイ、ムツ、メダイ	←											
		タチウオ	←											
	刺し網	カマス	←											
		マダイ	1月											
		イセエビ	4月	5月	8月	9月								
	海士	サザエ	5月	6月	8月	9月								
		アワビ類	6月	7月	8月	9月								
	定置網	ブリ、サバ、イワシ、アジ類	←											
	火光利用	サバ類	←											
	さば・さんま	まき網	さんま	←										
ブリ、サバ、タチウオ、イワシ、アジ類			←											

(ちばの海で始める漁業就業を元に作成)

○千葉ブランド水産物認定品(生鮮水産物・水産加工品・ふるさと品)

<p>・竹岡つりタチウオ</p> 	<p>・鋸南町勝山漁協 養殖江戸前真鯛</p> 
--	--

<https://www.pref.chiba.lg.jp/suisan/brand/ninteishina.html>

【地域資源】

内房地域にはバラエティ豊かな 9 つの道の駅が立地しており、様々な特産品やグルメが提供されている。また、伝統的な郷土料理である、房総寿司・なめろう等を味わうことができる。マリトレジャーも盛んで、ダイビングエリアが充実している。

景観に関しても、「関東の富士見百景」に多く選ばれており、富士山や伊豆大島等の自然景観を楽しむことができる。その他、豊かな自然環境や温暖な気候を利用した海水浴や花摘み等も楽しむことができる。

しかし、高速道路や公共交通機関の利便性が高まった一方で、地域における海へのアクセスに対する交通手段が不十分な状況である。また、団体の観光客が減少したことによる、受け入れ体制の見直しや個人客対応の強化が必要となっている。それに加えて、担い手の高齢化が進んでおり、後継者の確保が課題となっている。

○内房地域の地域資源(例)

○自然・景観	○漁業文化	○祭事・伝統	○博物館等
<ul style="list-style-type: none"> ・富士山、伊豆大島等の眺望 ・房総フラワーライン ・沖ノ島 	<ul style="list-style-type: none"> ・火光利用さば・さんま漁業 ・あま文化 ・定置網漁業 	<ul style="list-style-type: none"> ・洲崎のミノコドリ ・安房やわたんまち ・かっこ舞 ・源頼朝伝説 	<ul style="list-style-type: none"> ・館山市立博物館 ・館山市立博物館 分館 渚の博物館 ・青木繁「海の幸」記念館
○食文化	○アウトドア・スポーツ	○歴史遺産	○史跡・名勝
<ul style="list-style-type: none"> ・なめろう ・さんが焼き ・房州寿司 ・館山炙り海鮮丼 	<ul style="list-style-type: none"> ・海水浴場 ・ダイビング ・釣り 	<ul style="list-style-type: none"> ・鋸山 ・館山城 ・館山海軍航空隊 赤山地下壕跡 	<ul style="list-style-type: none"> ・谷向貝塚 ・安房神社洞窟遺跡 ・鉦切洞穴 ・大寺山岩窟墓及び出土品等
○道の駅 1	○道の駅 2	○その他 1	○その他 2
<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅保田小学校 ・道の駅きよなん ・道の駅富楽里とみやま 	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅とみうら枇杷倶楽部 ・道の駅南房パラダイス 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェリー航路 ・くだもの(びわ等) ・富裕層向けサーキット ・別荘地 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビドラマロケ地 ・魚著名人 ・県立館山総合高等学校

【海業の概要】

鋸南町保田、鋸南町勝山、岩井富浦の 3 漁協が直売所と飲食施設を運営し、定置網等で獲れた新鮮な魚介類を楽しむことができる。

鋸南町保田、岩井富浦、西岬、波左間の 4 漁協で体験漁業(定置網漁の見学等)を実施している。

鋸南町勝山、館山、波左間の 3 漁協で、ダイビング等の施設を運営・委託等の体制ができています。

<p>鋸南町保田漁協</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ばんや(直売所、飲食施設、係留施設、観光船、漁業見学、入浴・宿泊施設) 	<p>岩井富浦漁協</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験漁業(干物づくり、定置網漁、釣り筏) ・直売所 「大漁市場」 ・飲食施設「おさかな倶楽部」
<p>鋸南町勝山漁協</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直売所「活魚センター」 ・飲食施設「なぶら」 <p>周辺施設等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイビングスポット「浮島」 	<p>館山漁協</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲食施設「相浜亭」を運営(現在は、民間が営んでいる) <p>周辺施設等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイビングスポット「沖ノ島」

【今後の海業の取組意向】

アンケート調査より、海業に取り組みたいと回答があった漁協は 7 漁協中6漁協であり、半数以上が取組意向を示している。特に取り組みたい事業として、「プレジャーボート係留・保管」が多い結果となり、交流促進(マリンスポーツ・プレジャーボートの管理等)の取組意向がみられた。

今後、新たな活用の検討が必要な施設等について、7 漁協中 4 漁協が「ある」と回答しており、漁業者の減少・高齢化により、空きが生じている漁場や漁港施設等の活用意向がみられる。

また、7 漁協中 4 漁協が民間企業との連携に関心がある(1 漁協は養殖事業で連携中)。

表 海業の取組状況と今後の意向(内房地域)

○:取組中 ●:休止中 ◎:今後の意向

漁協	養殖	朝市	直売所	食堂	PB	体験	ダイビング等	今後の取組意向	新たな活用の検討が必要な施設等
天羽漁協 (大佐和支所除く)					◎			PBの係留・保管	用地(野積場、漁具干場等)加工施設
鋸南町保田漁協			○	○	◎	○		PBの係留・保管(施設拡大)	加工施設、冷凍・冷蔵施設
鋸南町勝山漁協			○	○	○	●	○		
岩井富浦漁協	○		◎	○	○	○		ハイブリッド魚種の直売・飲食展開	
館山漁協			◎	◎	○		○	閉鎖中の直売・飲食施設の再開	製氷・貯氷・給水施設、給油施設
西岬漁協	◎		○			○		養殖施設等	港湾水域、係留施設、荷捌所
波左間漁協	◎		●			○	○	マリンスポーツ、蓄養・増養殖	

○外房地域

【範囲・交通】

外房地域は、南房総市白浜町からいすみ市までの4市1町に至る範囲で、東京駅から特急や高速バスを利用して2時間から3時間程度でアクセスが可能である。また、房総スカイラインや鴨川有料道路に加え、圏央道の開通により、車でのアクセス性が向上している。



【漁業の概要】

外房地域には、5市町、34漁港、6漁協が立地している。地域内の34漁港のうち、第3種漁港が6港、第2種漁港が7港、第1種漁港が20港、第4種漁港が1港であり、県内の68漁港のおよそ半数を有し、小規模な漁港が数多く設置されている。

また、勝浦、鴨川、千倉の3漁港が流通拠点漁港、大原、小湊、天津、和田、乙浜の5漁港が生産拠点漁港に位置付けられている。

地域内の地方卸売市場として、13ヶ所(4市1町)の水産物卸売市場が開設されている。

自治体	漁港	漁協
いすみ市	○大原漁港、太東漁港、岩船漁港	夷隅東部漁協
御宿町	御宿岩和田漁港	御宿岩和田漁協
勝浦市	◇勝浦漁港	勝浦漁協
	勝浦東部漁港、串浜漁港、松部漁港、鶴原漁港、守谷漁港、浜行川漁港、大沢漁港	新勝浦市漁協
鴨川市	◇鴨川漁港、浜名太漁港、天面漁港、太夫崎漁港、江見漁港	鴨川市漁協
	○小湊漁港、○天津漁港、浜荻漁港	東安房漁協
南房総市	◇千倉漁港、○和田漁港、○乙浜漁港、白子漁港、忽戸漁港、川口漁港、平磯漁港、七浦漁港、大川漁港、白間津漁港、名倉漁港、野島漁港、川下漁港、白浜西部漁港	

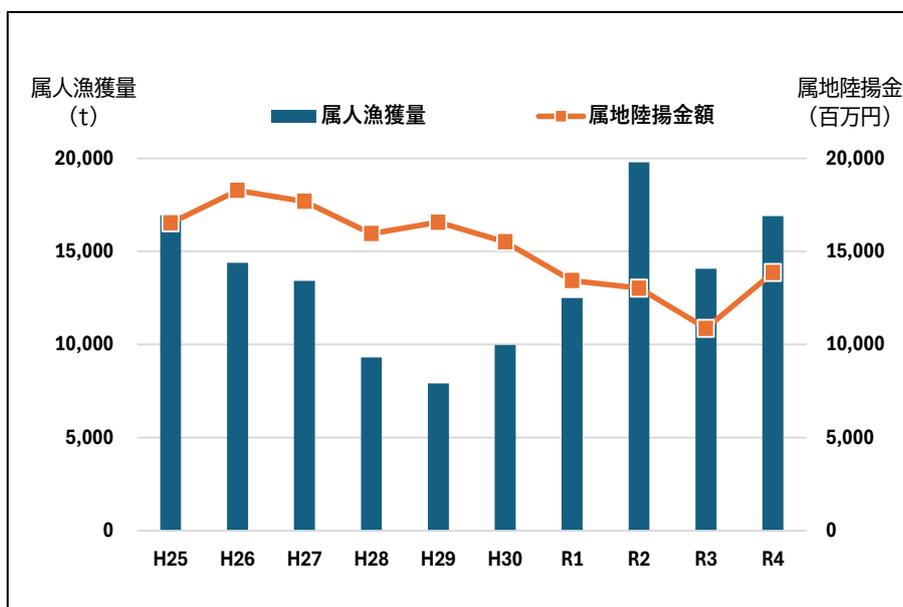
◇:流通拠点漁港 ○:生産拠点漁港

令和4年の属人漁獲量は、16,892tであり、平成25年の16,950tと比較すると、同等の漁獲量となっている。

なお、流通拠点漁港である勝浦漁港(第3種)、鴨川漁港(第3種)、千倉漁港(第3種)の3漁港で地域内の属人漁獲量の約49%、生産拠点漁港である大原漁港(第3種)、小湊漁港(第3種)、天津漁港(第3種)、和田漁港(第2種)、乙浜漁港(第4種)の5港で約40%と大半を占めている。

上記の8漁港以外では、500t未満が25漁港と規模が小さいことが伺える。

属人漁獲量及び属地陸揚金額の推移



(漁港港勢調査)

令和4年の属地陸揚金額は約135億円で、起伏の多い岩礁が多く、アワビやイセエビなどを対象とした磯根漁業、定置網漁業、沖合ではキンメダイやマグロなどを対象とした小型船漁業が盛んである。また、勝浦漁港には、県外の大型カツオ漁船が多く水揚げしている。

外房地域の漁業カレンダー

地域	漁法	対象魚種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
外房	立縄	キンメダイ、ムツ、サバ	→												
	刺し網	イセエビ								→					
	曳縄	カツオ			→										
		クロマグロ		→											
		サワラ		→											
	海士	アワビ類					→								
	はえ縄	マカジキ、マグロ類		→											
		トラフグ		→											
		マダイ						→							
	まさ刺網	ブリ、マダイ類		→											
		サワラ		→											
	たこつぼ	マダコ		→											
定置網	ブリ、サバ、イワシ、アジ類		→												
まさ網	ブリ、サバ、イワシ、アジ類		→												

(ちばの海で始める漁業就業を元に作成)

○千葉ブランド水産物認定品(生鮮水産物・水産加工品・ふるさと品)

・太東・大原産真蛸



・いすみ産船上活けサワラ



・外房あわび



・外房イセエビ



・勝浦釣り寒マカジキ



・勝浦産ひき縄カツオ



・外房つりきんめ鯛



・房州黒あわび



<p>・房州ひじき</p> 	<p>・房州和田浦つち鯨</p> 
<p>・房州産鯉節・花かつお</p> 	<p>・房州産鯖節・鯖花削り</p> 
<p>・天然あわび海女の味噌焼き</p> 	<p>・いすみ産大さざえ</p> 

<https://www.pref.chiba.lg.jp/suisan/brand/ninteishina.html>

【地域資源】

外房地域は、ご当地グルメ(おらが丼・伊八めし等)の開発が盛んである他、なめろう等の郷土料理を味わうことができる。また、和田の捕鯨や白浜の海女等、漁業の歴史・文化について学ぶことができる。さらに、かつうら海中公園海中展望塔や鴨川シーワールド等のファミリー層向けの観光施設がある。

しかし、高速道路や公共交通機関の利便性が高まった一方で、地域における海へのアクセスに対する交通手段が不十分な状況である。また、団体の観光客が減少したことによる、受け入れ体制の見直しや個人客対応の強化が必要となっている。それに加えて、担い手の高齢化が進んでおり、後継者の確保が課題となっている。

○外房地域の地域資源(例)

○自然・景観	○漁業文化	○祭事・伝統	○博物館等	○食文化
<ul style="list-style-type: none"> ・鯛の浦 ・鵜原理想郷 ・磯や漁村景観 ・白間津のお花畑 	<ul style="list-style-type: none"> ・磯根漁業 ・海女文化 ・捕鯨 	<ul style="list-style-type: none"> ・大原はだか祭り ・鵜原の大名行列 ・白浜海女まつり ・波の伊八 ・高家神社 ・勝浦朝市 	<ul style="list-style-type: none"> ・県立中央博物館分館 海の博物館 ・鯨資料館 ・鴨川市郷土資料館 ・白浜海洋美術館 	<ul style="list-style-type: none"> ・くじらのたれ ・おらが丼 ・勝浦タンタンメン ・勝浦朝市
○テーマパーク	○アウトドア・スポーツ	○道の駅	○その他 1	○その他 2
<ul style="list-style-type: none"> ・かつうら海中公園 ・鴨川シーワールド ・エデン (レストラン&スパ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・海水浴場 ・ダイビング ・サーフィン ・鯛の浦遊覧船 	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅和田浦 WA・O! ・道の駅鴨川オーシャンパーク ・道の駅くら・潮風大国 ・道の駅 白浜野島崎 ・ローズマリー公園 	<ul style="list-style-type: none"> ・人気アニメの舞台 ・県立大原高等学校 ・いすみ鉄道 ・南房千倉大橋(公園) 	<ul style="list-style-type: none"> ・避暑地 ・花摘み ・水産加工品 (干物等)

【海業の概要】

夷隅東部、新勝浦市、東安房の 3 漁協が直売所を運営し、地先で水揚げされた新鮮な魚介類等を販売している。

大原漁港、勝浦漁港、千倉漁港の 3 漁港の周辺で朝市が開催されている。また、いすみ市では漁港を活用して民間企業がアワビの陸上養殖に取り組んでいる。

<p>夷隅東部漁協</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食堂・直売所「いさばや」(大原漁港) ・港の朝市(毎週日曜午前開催) 	 	<p>新勝浦市漁協</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直売所「駅前直売所」 ・ダイビング施設「勝浦ダイビングリゾート」 ・勝浦朝市(水曜日・元旦を除き開催) 	 
<p>鴨川市漁協 周辺施設等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィッシャリーナ鴨川 ・太海フラワー磯釣りセンター 	 	<p>東安房漁協</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活き活き小湊ウオポート ・ちくら漁港朝市(第 2・4 日曜午前開催) 	 

【今後の海業の取組意向】

アンケート調査より、海業に取り組みたいと回答があった漁協は 6 漁協中 3 漁協であり、半数以上が取組意向を示している。特に取り組みたい事業として、「水産物の直売」、「水産物を提供する食堂」、「プレジャーボート係留・保管」が多い結果となり、消費増進（ブランド化や直売・飲食施設）、交流促進（マリンスポーツ・プレジャーボートの管理等）の取組意向がみられた。

今後、新たな活用の検討が必要な施設等について、6 漁協中 3 漁協が「ある」と回答しており、漁業者の減少・高齢化により、空きが生じている漁場や漁港施設等の活用意向がある。

また、6 漁協中 3 漁協が民間企業との連携に関心がある（1 漁協は養殖事業で連携中）。

表 海業の取組状況と今後の意向（外房地域）

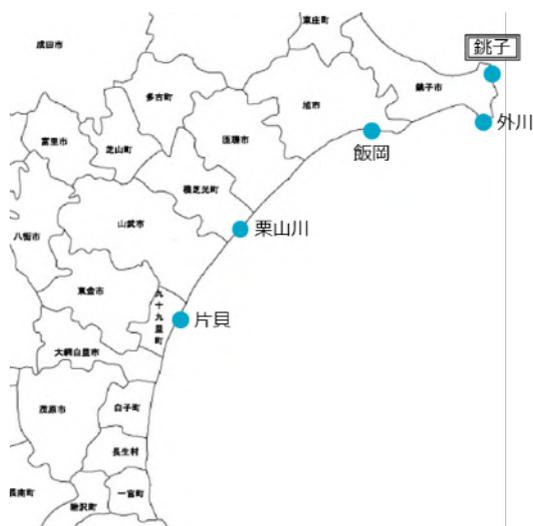
○：取組中 ●：休止中 ◎：今後の意向

漁協	養殖	朝市	直売所	食堂	PB	体験	ダイビング等	今後の取組意向	新たな活用の検討が必要な施設等
夷隅東部漁協	◎	○	○	○	◎	◎		メニュー開発、蓄養・増養殖 PBの係留・保管、釣り体験	係留施設、荷捌所、 用地（野積場、漁具干場等）
御宿岩和田漁協			◎	◎				直売、食堂	荷捌所、冷凍・冷蔵施設、事務所
勝浦漁協		○						海業協議会を実施	
新勝浦市漁協	◎	○	○	◎	◎	○	○	宿泊体験 海業協議会を実施	係留施設、加工施設、 漁具倉庫、冷凍・冷蔵施設、 製氷・貯氷・給氷施設
鴨川市漁協					○				
東安房漁協		○	○		○	○			

○銚子・九十九里地域

【範囲・交通】

銚子・九十九里地域は、一宮町から銚子市までの5市4町1村に至る範囲で、高速道路・有料道路の整備進展により、都心から車でのアクセスが容易である。一宮町まで1時間から1時間30分程度、銚子市までは2時間から2時間30分程度でアクセスが可能であるが、アクセス時間の更なる短縮等のため、現在、銚子連絡道路等の整備が進められている。成田空港からの距離は、県内4地域の中で最も近い。



【漁業の概要】

銚子・九十九里地域には、10市町、5漁港、3漁協が立地している。地域内の5漁港のうち、特定第3種漁港が1港、第2種漁港が1港、第1種漁港が2港、第4種漁港が1港、とまき網や沖合底びき網の大型漁船に対応する大規模な漁港で構成されている。

また、銚子、飯岡、片貝の3漁港が流通拠点漁港、外川の1漁港が生産拠点漁港に位置付けられている。

地域内の地方卸売市場として、3ヶ所(2市1町)の水産物卸売市場が開設されている。

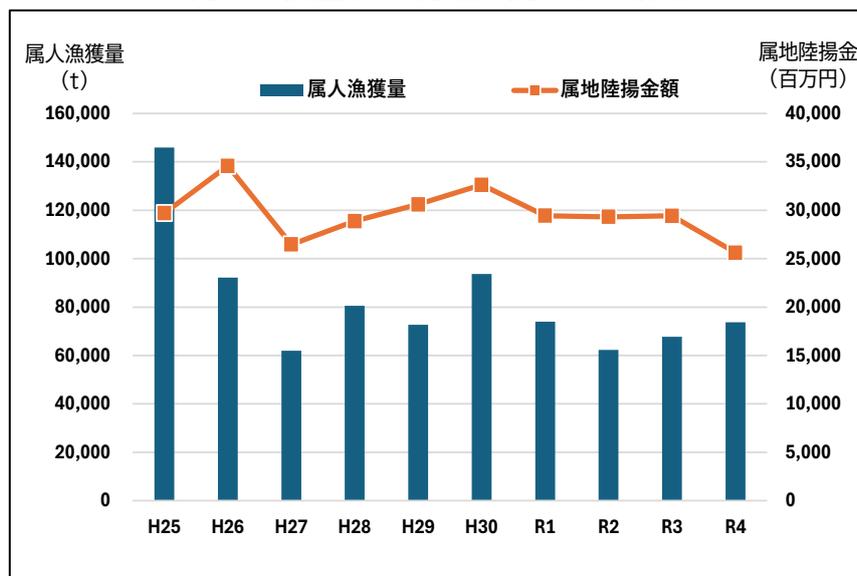
自治体	漁港	漁協
銚子市	◇銚子漁港、○外川漁港	銚子市漁協
旭市	◇飯岡漁港	海匠漁協
横芝光町	栗山川漁港	九十九里漁協
九十九里町	◇片貝漁港	

◇流通拠点漁港 ○生産拠点漁港

令和4年の属人漁獲量は、73,715tであり、平成25年の145,989tに対して約2分の1に減少している。

なお、流通拠点漁港である、銚子漁港(特定第3種)、飯岡漁港(第1種)、片貝漁港(第4種)、の3漁港で地域内の属人漁獲量の約99%とほとんどを占めている。

属人漁獲量及び属地陸揚金額の推移



(漁港港勢調査)

令和4年の属地陸揚金額は約256億円で、銚子エリアでは、大型船によるイワシ、サバなどを対象としたまき網漁業、サンマ棒受網漁業、沖合底びき網漁業のほか、小型漁船漁業(釣り・小型底びき網漁業など)が盛んで、約200種の魚種が水揚げされる。長大な九十九里の砂浜域では、ハマグリ、ナガラミなどを対象に貝桁網漁業などが行われている。

銚子・九十九里地域の漁業カレンダー

地域	漁法	対象魚種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
銚子・九十九里	貝桁網	チョウセンハマグリなどの貝類	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
		ヒラメ	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
	刺し網	ホウボウ	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
		イセエビ	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
		ガザミ	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
		マダイ	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
	船びき網	シラウオ	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
	小型底びき網	マダイ、ヒラメ・カレイ類	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
	沖合底びき網	ヤリイカ、カレイ類	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
	さんま棒受網	サンマ	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
流し網	マカジキ等	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	

(ちばの海で始める漁業就業を元に作成)

○千葉ブランド水産物認定品(生鮮水産物)

<p>・銚子つりきんめ</p> 	<p>・九十九里地はまぐり</p> 
<p>・九十九里いわしのごま漬</p> 	<p>・いわし野菜漬</p> 
<p>・九十九里産いわしオイルサーディン</p> 	<p>・九十九里かねとの煮干(青口、白口)</p> 
<p>・九十九里浜蛤酒蒸し</p> 	<p>・千葉銚子水揚げピリ辛いわし</p> 
<p>・銚子つりきんめ姿煮浜のかあちゃん仕立て</p> 	<p>・プレミアムふかひれ姿煮</p> 
<p>・銚子港水揚げ骨まで食べられるイワシのやわらか煮</p> 	<p>・九十九里焼き田作り</p> 

<https://www.pref.chiba.lg.jp/suisan/brand/ninteishina.html>

【地域資源】

銚子・九十九里地域は、広大な九十九里海岸を有し、古くから海水浴場として人気を博しており、蓮沼海浜公園のプール等を含めて多くの観光客が楽しんでいる。

釣ヶ崎海岸が東京オリンピックのサーフィン競技の会場に選定されるなどのマリレジャーが盛んな地域である。

銚子ポートタワーや銚子ジオパークからの利根川や屏風ヶ浦等の風光明媚な景観や、ホエールウォッチングを楽しむことができる。また、空の玄関口である成田空港から漁港への距離が近いことも特徴である。

一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大以前より海水浴客の減少が続き、海水浴場の開設数も減少していることから、観光客のニーズの変化に対応した海水浴場等を舞台にした新たな体験型アクティビティ等の検討・開発が課題となっている。

○銚子・九十九里地域の地域資源(例)

○自然・景観	○漁業文化	○祭り・伝統	○博物館等
<ul style="list-style-type: none"> ・九十九里海岸 ・銚子ジオパーク ・屏風ヶ浦 ・刑部岬 	<ul style="list-style-type: none"> ・イワシ漁 ・地びき網 ・万祝 ・銚子漁港 ・外川町の町並み 	<ul style="list-style-type: none"> ・大潮祭 ・西ノ下の獅子舞 ・上総とんび ・飯沼観音（圓福寺） ・地曳大漁歌、大漁節 	<ul style="list-style-type: none"> ・いわし資料館 ・外川三郷土資料館 ・九十九里ふるさと自然公園センター ・旭市防災資料館
○食文化	○テーマパーク	○アウトドア・スポーツ1	○アウトドア・スポーツ2
<ul style="list-style-type: none"> ・かいそう（コトジツノマタ） ・いわし料理 ・貝の浜焼き ・醤油 	<ul style="list-style-type: none"> ・蓮沼海浜公園 ・銚子ポートタワー ・飯岡刑部岬展望館 	<ul style="list-style-type: none"> ・サーフィン ・海水浴場 ・釣り 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングロード（太平洋岸自転車道） ・銚子ジオパークトレッキング ・オートキャンプ場
○道の駅	○史跡・名勝	○その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅オライはすぬま ・道の駅季楽里あさひ ・海の駅九十九里 	<ul style="list-style-type: none"> ・余山貝塚 ・姥山貝塚 ・貝殻塚貝塚 ・御前鬼塚古墳 	<ul style="list-style-type: none"> ・人気アニメの舞台 ・銚子電鉄 ・水産加工品（缶詰等） ・県立銚子商業高等学校 	

【海業の概要】

銚子市、九十九里の 2 漁協が直売所や食堂を運営し、地先で獲れた新鮮なハマグリやイワシ等の魚介類を取り扱っている。

また、九十九里漁協では年 2 回沖釣り大会を開催している。

銚子マリーナでプレジャーボートの係留保管を実施しているほか、ウオッセ 21 の有効活用が期待される。

<p>銚子市漁協</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食堂 「万祝(まいわい)」  <p>周辺施設等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産物即売センター「ウオッセ 21」 ・銚子ポートタワー ・銚子マリーナ 海水浴場 ・銚子マリーナ ・銚子港水産まつり  	<p>九十九里漁協</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直売所「おさかな新鮮大使」 ・遊漁船部会では沖釣り大会を年 2 回開催  <p>周辺施設等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の海水浴場で観光地びき網体験を実施  
<p>海匠漁協</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯岡漁港で開催した水産まつりの様子 	<p>周辺施設等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「季楽里あさひ」の鮮魚市場と販売連携 

【今後の海業の取組意向】

アンケート調査より、海業に取り組みたいと回答があった漁協は 3 漁協中1漁協であり、半数以上が取組意向を示している。取り組みたい事業として、「釣り体験」が多い結果となり、交流促進(釣り堀・観光船等)の取組意向がみられた。

今後、新たな活用の検討が必要な施設等について、3 漁協中 1 漁協が「ある」と回答しており、漁業者の減少・高齢化により、空きが生じている状況となっている漁港施設等の活用意向がある。

また、3 漁協中 2 漁協が民間企業との連携に関心がある。

表 海業の取組状況と今後の意向(銚子・九十九里地域)

○:取組中 ●:休止中 ◎:今後の意向

漁協	養殖	朝市	直売所	食堂	PB	体験	ダイビング等	今後の取組意向	新たな活用の検討が必要な施設等
銚子市漁協				○	○				
海匠漁協		●	○	◎		◎		景勝地の屏風ヶ浦を巡る観光船の取組を検討	
九十九里漁協			○						冷凍・冷蔵施設

(7)千葉県の特徴整理

【人口】

千葉県の人口は、平成27年以降は620万人台で推移しており、高い県内需要を見込むことができる。しかし、内湾以外の内房、外房、銚子・九十九里地域では人口減少が続いている。

【自然条件】

千葉県は三方を海に囲まれ、冬暖かく夏涼しい海洋性の温暖な気候である。冬の降雪量は県全域で比較的少なく、特に南房総沿岸は、暖流(黒潮)の影響で冬でもほとんど霜が降りない。また、勝浦市では35℃を超える「猛暑日」がなく、30℃を超える気温も数日のみで、近年避暑地や移住先として注目されている。

また、千葉県は、九十九里地域の長大な砂浜域や外房地域の変化に富んだ岩礁域、全国有数の浅海漁場である東京湾など、約531キロメートルに及ぶ海岸線を有している。

【交通】

千葉県は首都圏に位置し、鉄道や道路でのアクセスが良い。また、国際空港である成田空港を擁し、国内のみならず世界各国からアクセスが可能となっている。

【水産業】

千葉県の太平洋側の沖合では、黒潮と親潮が交差し豊かな漁場と多様な水産資源に恵まれている。また、各海域の特性に応じた多種多様な沿岸・沖合漁業が発達し、これら漁獲物を対象とする水産加工業が発達してきた。

令和4年の海面漁業・養殖業の総生産量は全国順位で9位と上位に位置しており、魚種別では全国1位のスズキ類をはじめ、全国上位の魚種も多い。しかし、近年の生産量及び産出額は減少傾向で、平成5年に比べ、総生産量で約52%、総産出額で約44%の減少となっている。

また、本県の漁業就業者数は、平成5年と令和5年を比較すると、約7割の減少となっており、総数が減少する中で高齢化率(漁業就業者数に占める65歳以上就業者数)は上昇を続け、令和5年では43%に達している。

県内には68の漁港が立地しており、県では、特に第3種漁港等の水産物の流通拠点となる漁港については、高度衛生管理への対応や流通機能の高度化に向けた取組を推進している。一方で、漁業者の減少・高齢化により、漁船や水揚量が減少したため、漁港の施設や用地に空きが生じてきていることが想定される。

【海業】

本県では、従来から潮干狩り場や遊漁船業など、海洋性レクリエーションを提供する事業が展開されてきた。また、1990年代以降は、定置網で漁獲される多種多様な漁獲物を活かした漁協直営食堂事業等、様々な事業が展開されており、本県は、海業の先進県であると言える。一方で、取組の継続・発展や新たに海業に取り組む意向を持つ漁協・漁業者もおり、さらに海業を展開していく必要がある。

以上から、千葉県の特徴を、SWOT 分析によって以下のように整理した。

海業推進における千葉県の SWOT 分析

<p>○Strength(強み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口 620 万人台で推移しており、高い県内需要を見込める。 ・冬暖かく夏が涼しい、海洋性の温暖な気候。 ・首都圏に位置し、東京からのアクセスが良い。 ・成田空港を擁し、海外からのアクセスが良い。 ・全国有数の水産県であり、多種多様な漁業・水産加工業が立地している。 ・水産物の流通拠点漁港では衛生管理や流通機能の高度化を推進している。 ・県内には多くの漁港や水産物直売所を有している。 ・三方を海に囲まれ、約 531 キロメートルに及ぶ海岸線を有している。 ・変化に富んだ海岸を活かしたマリトレジャーが盛ん。 ・先進的に海業に取り組んできた地域がある。 ・今後、海業の取組を継続・発展させたい地域がある。 ・集客力の高いテーマパークやレジャー施設、道の駅等がある。 	<p>○Weakness(弱み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 5 年に比べ、漁業の生産量で約 52%、産出額で約 44%の減少となっている。 ・漁業者の減少・高齢化により、担い手が不足している。 ・多様な自然や文化などの地域資源を十分に活かしてきていない。 ・多様なニーズに対応するための、他分野、地域内外の企業等との連携が不十分。
<p>○Occasion(機会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速道路の整備・延伸により首都圏からのアクセスが向上している。 ・令和 5 年の宿泊者数については、日本人宿泊客は令和元年比で同水準に、外国人宿泊客は約 7 割まで回復。 ・インバウンド需要の増加。 ・「モノ消費」から「コト消費」へのシフト。 ・近隣の大型商業施設や道の駅等へ来ている観光客。 	<p>○Threat(脅威)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁村地域では人口減少や高齢化が進行している。 ・利用が少なくなった漁港施設や漁場が見られる。 ・海洋環境の変化に対応した生産活動の見直し求められる。 ・自然災害や海域での事故を契機とした海離れ。

<ul style="list-style-type: none"> ・「強み」:「高い県内需要」「全国有数の水産業県」「マリトレジャー、海業の先進地」、等 ・「弱み」:「漁業生産、漁業者の減少」「担い手の不足」「連携の不足」「地域資源の未活用」、等 ・「機会」:「アクセスの向上」「コロナ禍からの需要の回復・増加」「消費行動の変化」、等 ・「脅威」:「漁村地域の人口減少」「漁港・漁場の利用減少」「海離れ」、等
--

(8)千葉県全体の課題

○海業推進による漁村地域のにぎわい・雇用の創出

- ・千葉県は全国有数の水揚げ量を誇る水産県であり、漁村地域には景観やマリンレジャーなど多くの地域資源があるが、十分に活かしきれていない。
- ・また、千葉県は首都圏に位置し、国際空港を擁することから、東京・海外からのアクセスも良く、漁業生産を核とした多様なニーズに応えることが可能なポテンシャルを有するも、活用が進んでいない部分がある。

○漁港・漁場・漁村が持つ資源の有効活用

- ・海洋環境の変化や漁業者の減少・高齢化などの要因により、利用が少なくなった漁港施設や漁場の有効活用、生産活動等の見直しが必要となってきている。
- ・具体的には、釣り堀やプレジャーボート受入等による港内水面の活用、陸上養殖事業や直売・飲食施設の整備等による用地の活用、地場水産物の高付加価値化、マリンスポーツとの連携等についての再検討が必要である。

○海業推進の担い手の確保

- ・漁村地域は人口減少や高齢化が進み、漁業生産の継続に注力せざるを得ず、直売・飲食等の多様なニーズに対応するための担い手が不足している。
- ・漁協・漁業者が主体となりながら、他分野・地域内外の企業等と連携して海業を推進し、稼げる漁業への転換を進める体制の構築が求められる。

(9)地域別の課題

各地域の現状分析を踏まえ、地域別の課題を以下のように整理した。

地域別の課題

	内湾地域	内房地域	外房地域	銚子・九十九里地域
海業推進による漁村地域のにぎわい・雇用の創出	・東京や成田空港からのアクセス性、大規模集客施設や海浜公園等の立地を活かした、新たな交流の促進。	・沿岸域の多様な漁業でとれる水産物や観光施設を活かした、漁港を拠点とする新たな交流の促進。	・漁村らしい景観と豊かな自然を活かした、新たな交流の促進。	・蓮沼海浜公園の立地や成田空港からのアクセス性も活かした、新たな交流の促進。
漁港・漁場・漁村が持つ資源の有効活用	・新たな水産物消費の機会創出や東京湾のプレジャーボート需要への対応等。 ・「都市」から「観光地」へ意識を変えていくためのイメージ戦略の検討。	・伊豆大島や富士山等の眺望等を活かした取組の検討等新たなニーズの抽出等。 ・これまでの取組をもとに、地域の資源を連携していく体制の検討。	・変化に富んだ岩礁域のため小規模な漁港が多く、小規模漁港の総合的な活用。	・知名度の高い九十九里浜と合わせ、海との近接性を活かした利用の検討。 ・観光客のニーズに対応した新たな体験型アクティビティの検討。
海業推進の担い手の確保	・近隣に立地する大規模集客施設との連携。 ・直売所・飲食施設等の運営を検討するための体制の構築。	・市が進める大型客船誘致との連携。 ・ニーズが高いプレジャーボート受入れや首都圏富裕層へ対応するための体制の構築。	・観光施設等との連携。 ・漁村文化を活かした新たな体験を検討するための体制の構築。	・九十九里海岸や蓮沼海浜公園との連携。 ・屏風ヶ浦等の特徴ある景観を活かした新たな体験を検討するための体制の構築。

3 目指す姿

(1)千葉県全体の海業推進に向けた基本方針

県内各地域の現状と課題を踏まえ、県の海業推進に向けた基本方針は以下のとおり。

■基本方針 1 漁業・漁村が持つ地域資源を有効活用・管理し、持続可能な漁村地域を創出する。

- 漁業者の減少・高齢化を踏まえた、漁場や漁港施設等の効果的な活用。
- 水産資源の減少や海洋環境の変化に対応した、新たなビジネスの創出。
- これまでの取組実績を基に、地域や関係者への影響・波及を考慮した海業の推進。

■基本方針 2 漁業・漁村の地域資源と多様なニーズをつなげ、新たな市場を創出する。

- 漁港を拠点とした体験できる地域資源の掘り起こし。
- 地域で獲れる水産物や海でのアクティビティの付加価値を高める新たなニーズを創出。
- 近年増加しているインバウンド等の新たなニーズへの対応。

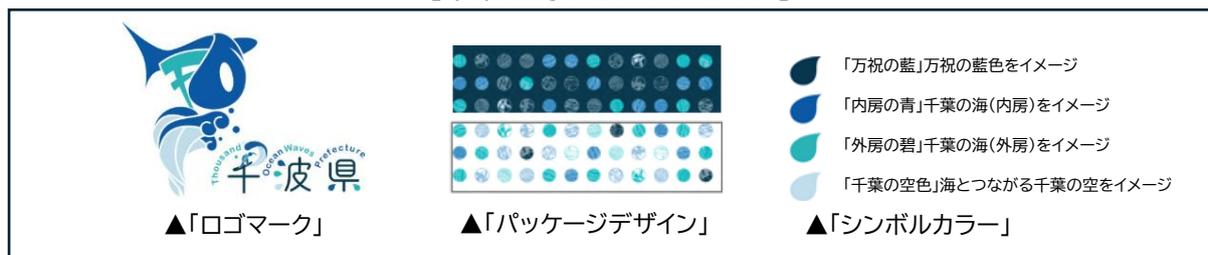
■基本方針 3 民間企業等の多様な主体と連携し、海業の担い手を確保・育成する。

- 漁業者・漁協が海業に取り組みやすい環境の創出。
- 海業に取り組む意向のある漁業者・漁協と、民間企業等との連携の促進。
- 漁業者・漁協と多様な主体との win-win な関係構築。

■基本方針 4 海や漁業・漁村に関する魅力を次世代に継承する。

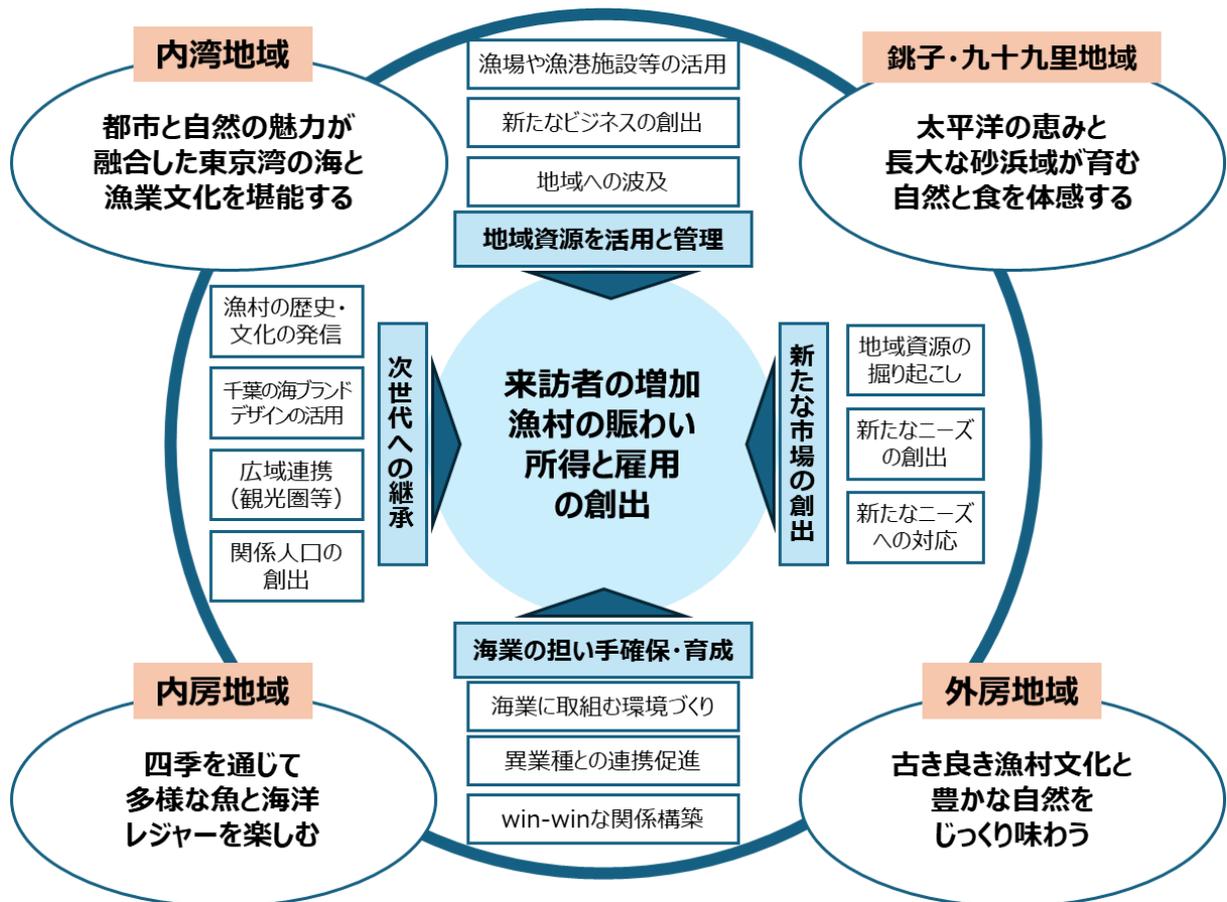
- 海や漁業・漁村が持つ歴史・文化の積極的な発信。
- 千葉の海ブランドデザインの活用。
- 多様な主体が広域に連携し、漁業・漁村の魅力を伝えるプロジェクトの推進。
- 様々な人たちが海や漁業・漁村の魅力に触れ、地域に関わる機会の創出。

【千葉の海ブランドデザイン】



(2)海業の推進により目指す県の将来像

漁業者を中心とした地域に関わる人々が、基本方針に沿った海業を推進することで漁村の活性化を目指す。



4 今後の取組

(1) 県内各地域の取組方針の概要

県内各地域の特徴を踏まえ、各地域が目指す姿は以下のとおり。

○内湾地域

地域の特徴	都内からアクセスしやすく、潮干狩りの他、漁業者が伝統的な簀立て遊びや地びき網体験、遊漁船等の取組を行っている。
目指す姿	「都市と自然の魅力が融合した東京湾の海と漁業文化を堪能する」

○内房地域

地域の特徴	多くの道の駅や漁協直営の飲食施設が立地しており、様々な特産品やグルメが提供されている。マリンレジャーも盛んで、海業の先進的な地域。
目指す姿	「四季を通じて多様な魚と海洋レジャーを楽しむ」

○外房地域

地域の特徴	起伏の多い岩礁で獲れるアワビやイセエビの他、沖合で獲れるキンメダイやマグロ漁が盛ん。大原、勝浦、千倉では朝市が開催されている。
目指す姿	「古き良き漁村文化と豊かな自然をじっくり味わう」

○銚子・九十九里地域

地域の特徴	国内有数の水揚げを誇る銚子漁港があり、長大な九十九里浜では海水浴やサーフィン等のマリンレジャーが盛ん。
目指す姿	「太平洋の恵みと長大な砂浜域が育む自然と食を体感する」

(2)地域別の取組方針

○内湾地域

「都市と自然の魅力が融合した東京湾の海と漁業文化を堪能する」

■主な海業の方向性

○立地を活かしたにぎわいづくりや消費増進

【主なターゲット】

- ・県内、首都圏在住一般観光客
- ・アウトレットなど広域的に集客する大規模商業施設への来訪者

【取組例】

- 直売所：江戸前水産物の販売
- 食堂：東京湾や富士山等の眺望を活かした施設の整備
- 地域連携：大規模集客施設や地域飲食店との連携
- 地域連携：調理師専門学校と連携した魚料理教室
- 地域連携：テーマパークと漁協直売施設を巡るスタンプラリー
- 地域連携：漁港施設を利用したマリンスポーツ等のイベント

など

○海からのアクセス受入れの充実による交流促進

【主なターゲット】

- ・首都圏在住富裕層

【取組例】

- 漁港活用：プレジャーボートの係船・陸揚施設の整備
- 地域連携：既存係留施設と連携した交流施設の整備
- 地域連携：富裕層への出張料理サービス(BBQ など)
- 交流促進：漁港周辺海域における地域ルールの検討
- 交流促進：東京湾内のマリーナ施設に対する情報提供

など

【海業の取組 参考事例】

<田尻漁協(大阪府泉南郡田尻町)>

- ・朝市その他、飲食施設、漁業体験や釣り堀、プレジャーボート管理やヨットスクールを開催。漁協が中心となり、取組ごとに民間事業者と連携し運営。



バーベキュー施設

<http://www.tajiriport.com/>

○MICE やインバウンド等の新たな来訪者への対応

【主なターゲット】

- ・幕張新都心等への来訪者
- ・インバウンド(成田空港、羽田空港、都心部宿泊施設等)

【取組例】

- 景観活用:ワーケーション施設の整備
- 魚食体験:寿司や丼ものづくり体験の実施
- 地域連携:アニメツーリズム(千葉市)との連携
- 交流促進:工場の夜景を海から観賞する漁船クルーズ
- 地域連携:空港等の拠点施設での水産物販売イベント
- 地域連携:空港等の拠点施設を起点にバスで巡る漁村ツアー など

○漁業体験等による歴史や文化の継承

【主なターゲット】

- ・市町村内在住者、児童・生徒
- ・県内、首都圏在住一般観光客
- ・アウトレットなど広域的に集客する大規模商業施設への来訪者

【取組例】

- 漁業体験:ノリ養殖体験、オーナー制の導入、簀立て遊び
- 漁業体験:漁業体験プログラム、潮干狩りの情報発信
- 教育体験:底びき網で獲れた海ごみから学ぶエコツアー
- 教育体験:干潟を学ぶエコツアー(生態系観察等)
- 教育体験:料理系インフルエンサーによる江戸前水産物の魚食モデルツアー など

【海業の取組 参考事例】

<泉南ロングパーク(大阪府泉南市)>

・岡田浦漁港が隣接する大阪府所有の土地を泉南市が借り入れ、公民連携により「泉南りんくう公園」を整備。マルシェエリアには岡田浦漁協や飲食店のショップがあり、マルシェを毎週末に開催している。



マルシェ

○内房地域

「四季を通じて多様な魚と海洋レジャーを楽しむ」

■主な海業の方向性

○多様な魚種を活かしたにぎわいづくりや消費増進

【主なターゲット】

- ・県内、首都圏在住一般観光客
- ・マリンレジャーや漁業体験の利用者

【取組例】

直売所：沿岸域の多様な漁業で獲れる水産物の販売
食堂：伊豆大島、富士山等の眺望を活かした施設の整備
食堂：漁協直営食堂での婚活イベント
地域連携：アジフライフェアや道の駅との連携
地域連携：ドラマ等のロケツーリズムとの連携
地域連携：郷土料理を活かしたメニュー開発
地域連携：東京湾フェリーと連携した魚食普及イベント
交流促進：道の駅や漁協直売施設を巡るスタンプラリー

など

○海からのアクセス受入れの充実による交流促進

【主なターゲット】

- ・首都圏在住富裕層

【取組例】

漁港活用：プレジャーボートの係船・陸揚施設の整備
地域連携：既存係留施設と連携した交流施設の整備
地域連携：富裕層への出張料理サービス(BBQ など)
交流促進：大型客船誘致と連携した体験プログラム開発(館山市)
交流促進：漁港周辺海域における地域ルールの検討
交流促進：東京湾内のマリーナ施設に対する情報提供
交流促進：伊豆大島、三浦半島と連携したプレジャーボート向け推奨航路の設定

など

【海業の取組 参考事例】

<ブルーパーク阿納(福井県小浜市)>

・海上釣堀、バーベキュー施設、魚さばき体験ができる交流施設。漁船クルージングや養殖魚餌やり体験、カヤック等、様々な体験プログラムをローテーションで体験させることで、多人数での受入も可能としている。



教育体験用釣り施設

○アウトドア・スポーツ資源を活用したにぎわいづくり

【主なターゲット】

- ・県内、首都圏在住一般観光客
- ・県内家族連れ

【取組例】

利便性向上：休憩施設の整備

釣り体験：海釣り施設等新しい集客のある施設の整備

地域連携：海洋レジャー施設、宿泊施設等との連携

地域連携：東京湾フェリーと連携したネイチャーツアーの開発

地域連携：漁港施設を利用したマリンスポーツ等のイベント

交流促進：漁船を利用した観光クルーズの実施

交流促進：釣りインフルエンサーによる館山港の釣りモデルツアー

など

○漁業体験等による歴史や文化の継承

【主なターゲット】

- ・市町村内在住者、児童・生徒
- ・県内、首都圏在住一般観光客

【取組例】

地域連携：渚の博物館等の既存施設、県内の魚著名人による海洋教育との連携

漁業体験：漁業体験を盛り込んだ教育旅行や渚泊の推進

教育体験：漁業から学ぶ海ごみ等のエコツアー

教育体験：ダイビングで海洋環境の変化を知るエコツアー

教育体験：小中学生向け磯観察等の体験授業

教育体験：料理系インフルエンサーによる定置網漁獲物の魚食モデルツアー

教育体験：ダイビングと連携した水難救助講習会の実施

など

【海業の取組 参考事例】

<羅臼漁協(北海道目梨郡羅臼町)>

・漁港を拠点とした小型観光船によるネイチャークルーズが行われている他、大型クルーズ船の寄港に合わせ、漁港食堂等と連携し、集客の拡大を図っている。



ネイチャークルーズ

○外房地域

「古き良き漁村文化と豊かな自然をじっくり味わう」

■主な海業の方向性

<p>○多様な漁獲物を活かした消費増進</p> <p>【主なターゲット】</p> <ul style="list-style-type: none">・県内、首都圏在住一般観光客・マリンレジャーや漁業体験の利用者 <p>【取組例】</p> <p>直売所：沿岸・沖合域の多様な漁業で獲れる水産物の販売</p> <p>地域連携：おらが井や伊八めし、朝市等との連携</p> <p>地域連携：イセエビ、マカジキ、キンメダイ、タコ等の千葉ブランド水産物を活用した商品・メニュー開発</p> <p>地域連携：キャンプ場やゴルフ場での水産物販売・イベント開催</p> <p>地域連携：キャンプ場、ゴルフ場等レクリエーション施設から漁村への送客・周遊サービス</p> <p>地域連携：県立大原高等学校と連携した商品開発</p> <p>交流促進：アワビ、イセエビ等高級食材を活用したガストロノミーリズム</p> <p style="text-align: right;">など</p>
<p>○海からのアクセス受入れの充実による交流促進</p> <p>【主なターゲット】</p> <ul style="list-style-type: none">・首都圏在住富裕層 <p>【取組例】</p> <p>漁港活用：プレジャーボートの係船・陸揚施設の整備</p> <p>地域連携：既存係留施設と連携した交流施設の整備</p> <p>交流促進：漁港周辺海域における地域ルールの検討</p> <p>交流促進：近隣のマリーナ施設に対する情報提供</p> <p style="text-align: right;">など</p>

【海業の取組 参考事例】

<p><氷見漁港(富山県氷見市)></p> <p>・漁港施設用地内の市有地を活用し、市はグランピング施設を整備・運営する民間事業者を選定。BBQでは氷見漁港で水揚げされた寒ブリ、イワシを始めとする新鮮な魚介類や、氷見牛などの地元食材を提供。</p>	 <p style="text-align: center;">グランピング施設</p>
--	--

<https://wharf.co.jp/>

○地域施設等との連携による集客力の強化

【主なターゲット】

- ・県内、首都圏在住一般観光客
- ・県内外の家族連れ

【取組例】

集客力強化:新しい集客施設(海釣りやBBQ)の整備

地域連携:県立中央博物館分館 海の博物館、勝浦海中公園、鴨川シーワールド、
いすみ鉄道、宿泊施設との連携(土産品・ツアー開発)

地域連携:鴨川市のアニメツーリズムとの連携

地域連携:旅行系インフルエンサーによるモデルツアー等の検討

地域連携:朝市や漁協直売施設を巡るスタンプラリー

交流促進:ホテル滞在者や移住者向け体験プログラム開発

交流促進:新たな海業拠点施設(ワーケーション等)の整備

交流促進:遊漁サービス支援施設の設置・情報発信

など

○漁業体験等による歴史や文化の継承

【主なターゲット】

- ・首都圏の児童・生徒・観光客
- ・県内、首都圏在住一般観光客

【取組例】

教育体験:教育プログラムの実施(和田の捕鯨、白浜の海女文化)

漁業体験:漁業体験を盛り込んだ教育旅行や渚泊の推進

教育体験:波の伊八を辿るアートツーリズム

教育体験:漁業から学ぶ海ごみ等のエコツアー

教育体験:料理系インフルエンサーによる郷土料理モデルツアー

教育体験:サーファーと連携した水難救助講習会の実施

など

【海業の取組 参考事例】

<体験村・たのはたネットワーク

(岩手県下閉伊郡田野畑村)>

・小型漁船(サツパ船)を用いて、漁業者が岬に大きく開いた穴や、岩礁の間を縫うようにして、200mもの北山崎の断崖景観のツアーを体験。



漁業者のガイドツアー

○銚子・九十九里地域

「太平洋の恵みと長大な砂浜域が育む自然と食を体感する」

■主な海業の方向性

○多様な漁獲物を活用した消費増進

【主なターゲット】

- ・県内、首都圏在住一般観光客
- ・県内家族連れ

【取組例】

直売所：既存直売施設等のリニューアル

食堂：サバやイワシ、ハマグリを使った商品・メニュー開発

地域連携：銚子電鉄やアニメツーリズム(銚子市)との連携

地域連携：空港周辺の集客施設での水産物販売・イベント開催

地域連携：道の駅や漁協直売施設を巡るスタンプラリー

交流促進：直売施設等でのレンタサイクルの提供

など

○多様なアウトドア・スポーツ体験による交流促進

【主なターゲット】

- ・県内、首都圏在住一般観光客
- ・県内家族連れ

【取組例】

漁業体験：九十九里浜を利用した地びき網等の体験

景観活用：屏風ヶ浦、ホエールウォッチング等の観光プログラムの実施

地域連携：銚子ジオパークを巡るアドベンチャーツーリズム

交流促進：漁港内の水域を活用した海釣り施設の検討

交流促進：サーフィンを中心としたスポーツツーリズムとの連携

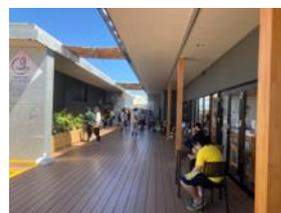
交流促進：サイクリングの休憩・撮影スポットに漁港を活用

など

【海業の取組 参考事例】

<有田箕島漁協(和歌山県有田市)>

・簡易直売所の試験実施から常設化。野積場用地等を活用し、漁協直営の水産物直売所「浜のうたせ」を整備。屋外スペースでは直売所で購入した食材で海鮮BBQができる。



直売所・飲食施設

○遊漁船業を核とした交流促進

【主なターゲット】

- ・県内、首都圏在住一般観光客
- ・県内家族連れ
- ・インバウンド(成田空港利用)

【取組例】

釣り体験:成田空港の利用者を想定した釣り体験プログラム
利便性向上:遊漁船利用者を対象とした待合所、シャワー施設の整備等
交流促進:漁港周辺海域における地域ルールの検討
交流促進:釣りインフルエンサーによる遊漁船モデルツアー
地域連携:釣った魚の地域通貨買取サービス

など

○漁業体験等による歴史や文化の継承

【主なターゲット】

- ・市町村内在住者、児童・生徒
- ・県内、首都圏在住一般観光客

【取組例】

教育体験:イワシ漁業等の歴史・文化を学ぶ教育プログラムの実施
教育体験:漁港施設の有効活用による体験・教育プログラムの実施
教育体験:漁業から学ぶ海ごみ等のエコツアー
教育体験:小中学生向け地びき網等体験授業
教育体験:料理系インフルエンサーによる銚子を丸ごと食べるモデルツアー等の検討
地域連携:水産加工業者と連携した缶詰づくり体験

など

【海業の取組 参考事例】

<稲荷丸(静岡県賀茂郡東伊豆町)>

・商工会からの提案を受けた漁業者が、キンメダイ漁が終わった後の昼間、漁港に停泊している漁船を使った遊覧船事業に取り組んでいる。漁協には売上に応じた手数料が入る。



観光クルーズ

<https://www.inari-maru.com/>

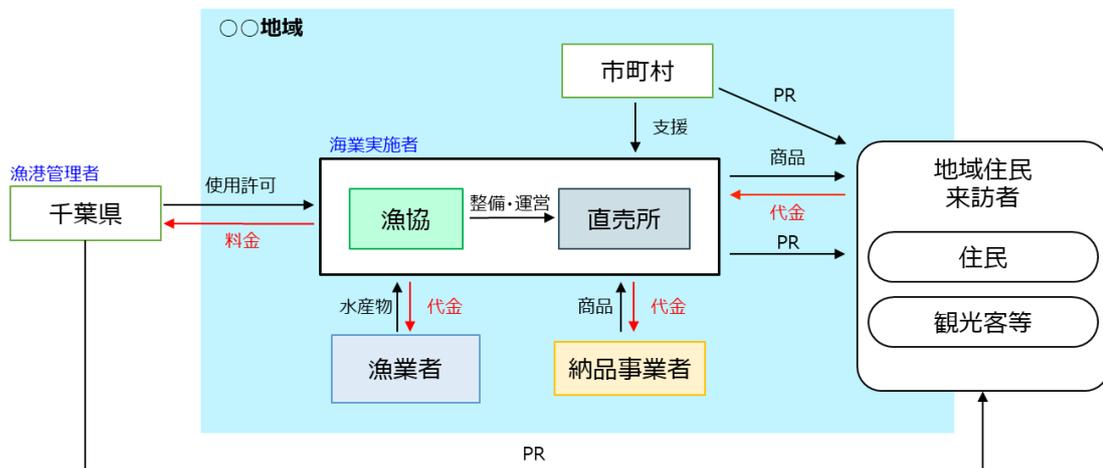
(3)取組例に対する効果検証

海業の取組例に対する効果検証として、経済主体間関係図、収支モデルを以下のとおり整理した。

○直売所型モデル

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地元で漁獲された水産物の鮮魚や加工品を販売する。直売所を整備する前段階では、朝市等で販売する。 ・施設整備：漁協（朝市は荷捌所等を利用） ・施設運営管理：漁協
取扱商品	・地元でとれた水産物の鮮魚や加工品。加工品については近隣の事業者とも連携する。
サービスのセールスポイント	・海の眺望が楽しめる漁港の目の前で、新鮮な水産物を買うことができる臨場感。
販売ターゲット、見込事業者、販売戦略	・ターゲット：地元および近隣市町村住民、観光客

【経済主体間関係図】



【収支モデル】

・事業規模想定試算

項目	数値	単位	備考
年間購入者数	29,333	人	
客単価	1,500	円	漁業センサス及び県内漁協等の既存資料より平均単価を仮定
売上金額	44,000,000	円	水産物直売所千葉県平均（農林水産省「令和4年度6次産業化総合調査」）
営業日数	273	日	水産物直売所千葉県平均（農林水産省「令和4年度6次産業化総合調査」）
1日平均購入者数	107	人	
1日当たり売上	160,500	円	

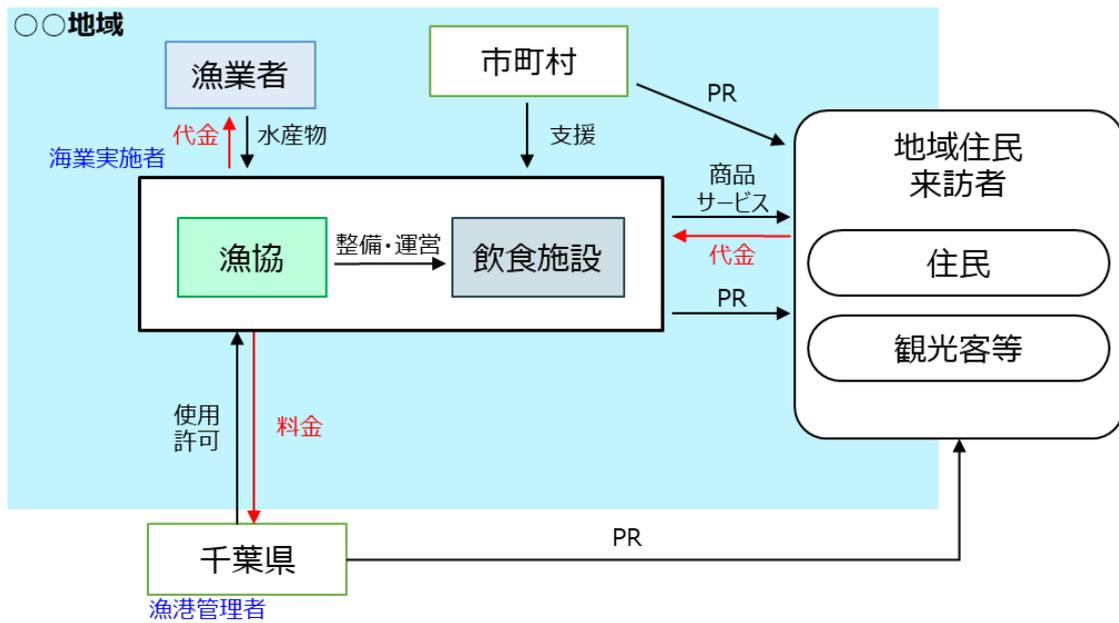
・事業規模収支想定試算

	項目	金額	比率	備考
収入（売上）		44,000,000	100%	
	1 売上	44,000,000		水産物直売所千葉県平均（農林水産省「令和4年度6次産業化総合調査」）を参考
支出		41,800,000	95%	支出の比率については、県内漁協の資料を参考とした
	1 原材料費	26,400,000	60%	内訳：仕入高、消耗資材費
	2 労務費	4,400,000	10%	内訳：給料手当、法定福利費
	3 経費	11,000,000	25%	内訳：販売手数料、水道光熱費、消耗備品費、施設管理費、減価償却費、雑費等
営業利益		2,200,000	5%	

○飲食型モデル

【経済主体間関係図】

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・漁港用地を活用し、民間企業と連携し地元の水産物を提供する施設を開設する。 ・施設整備：漁協・市町村 ・施設運営管理：漁協
取扱商品	・地元水産物を中心とした海産物を楽しむことができるレストラン。
サービスのセールスポイント	・目の前に漁港や海岸の眺望が広がるなか、新鮮な水産物を使った料理を食する楽しみ。
販売ターゲット、見込事業者、販売戦略	・ターゲット：地元および近隣市町村住民、観光客



【収支モデル】

・事業規模想定試算

項目	数値	単位	備考
年間購入者数	48,000	人	県内漁協の資料より
客単価	1,580	円	
売上金額	76,000,000	円	県内漁協の資料より
営業日数	273	日	直売所と同日数
1日平均購入者数	176	人	
1日当たり売上	278,080	円	

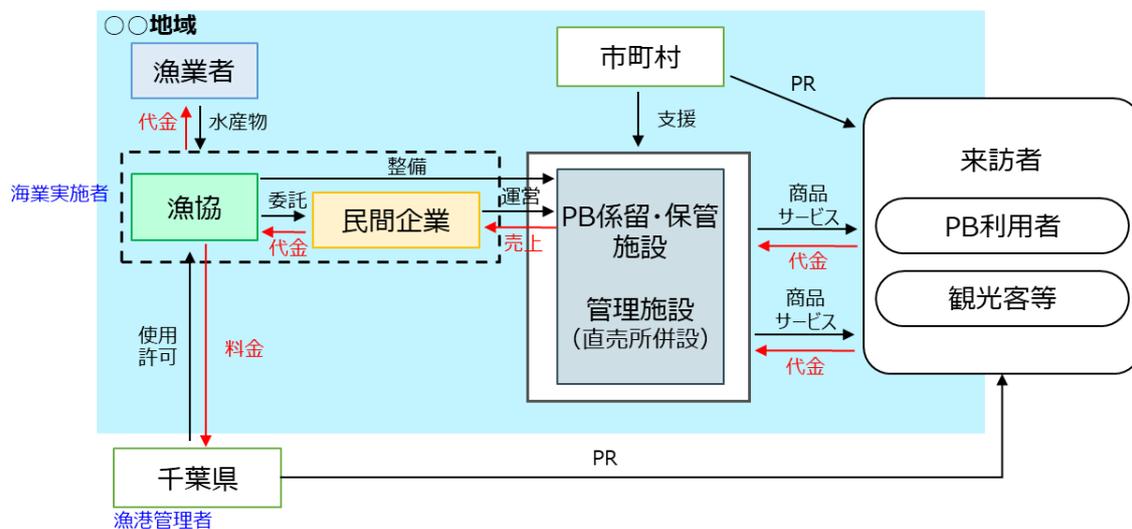
・事業規模収支想定試算

	項目	金額	比率	備考
収入（売上）		76,000,000	100%	
	1 売上	76,000,000		県内漁協の資料を参考とした
支出		72,200,000	95%	支出の比率については、県内漁協の資料を参考とした
	1 原材料費	30,400,000	40%	内訳：仕入高、消耗資材費
	2 労務費	30,400,000	40%	内訳：給料手当、法定福利費、福利厚生費
	3 経費	11,400,000	15%	内訳：販売手数料、水道光熱費、消耗備品費、施設管理費、減価償却費、雑費等
営業利益		3,800,000	5%	

○プレジャーボート(PB)型モデル

【経済主体間関係図】

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・プレジャーボートの係留・保管を実施し、海へのアクセスの向上(交流拡大)や管理施設内に直売機能(消費増進)を併設し、地元で漁獲された水産物の鮮魚や加工品を販売する。直売機能を整備する前段階では、朝市等で販売する。 ・施設整備:漁協 ・施設運営管理:漁協からの委託事業者(民間企業)
取扱商品	<ul style="list-style-type: none"> ・PBの係留・保管を実施し、海へのアクセスの向上を目指す。 ・地元でとれた水産物の鮮魚や加工品。加工品については近隣の事業とも連携する。
サービスの内容と価格	<ul style="list-style-type: none"> ・1隻あたりの年間契約金額:86,700円
販売ターゲット、見込事業者、販売戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット:首都圏内在住の富裕層、観光客



【収支モデル】

・事業規模想定試算

項目	数値	単位	備考
年間契約数	117	艇	県内漁協の資料より
客単価	86,700	円	売上金額、年間契約数の数値から計算
売上金額	10,150,000	円	

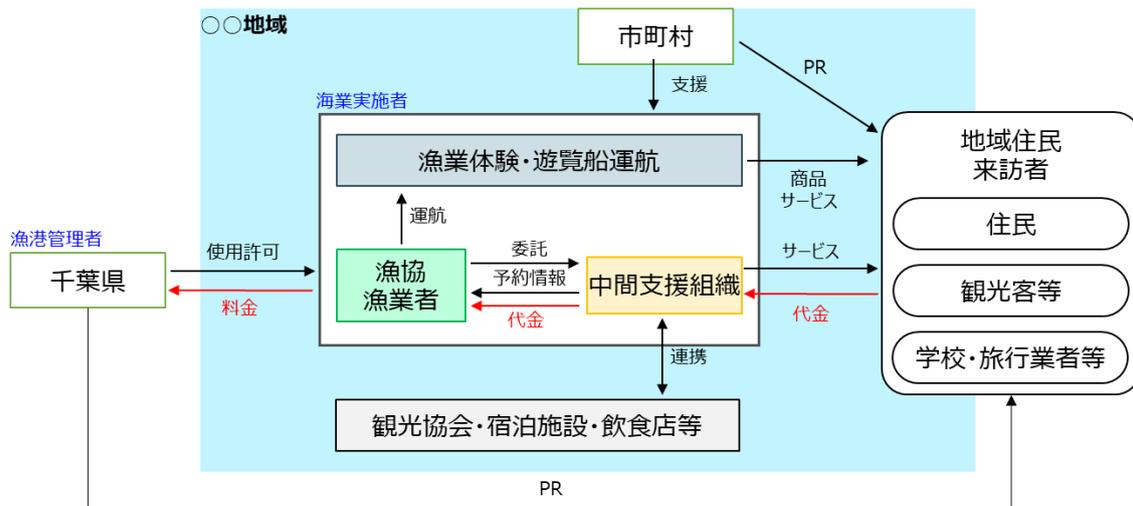
・事業規模収支想定試算

	項目	金額	比率	備考
収入（売上）		10,150,000	100%	
	1売上	10,150,000		県内漁協の資料を参考とした
支出		7,612,500	95%	支出の比率については、県内漁協の資料を参考とした
	1事業費	2,537,500	40%	内訳：水道光熱費、消耗備品費、施設管理費、雑費等
	2事業管理費	5,075,000	40%	内訳：給料手当、法定福利費、福利厚生費
営業利益		2,537,500	25%	

○漁業体験・遊覧船型モデル

【経済主体間関係図】

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・海業拠点である漁港を発着点として養殖漁場や定置漁場を廻る漁業体験等、海岸沿いの景勝地をめぐる遊覧船クルーズの運行サービスを定着させる。 ・漁業体験・遊覧船運航：漁協 ・窓口業務等：漁協からの委託事業者(中間支援組織)
取扱商品	<ul style="list-style-type: none"> ・漁港を発着点とした、漁業体験 ・遊覧船運航
サービスの内容と価格	<ul style="list-style-type: none"> ・3,500 円/大人(漁業体験)
販売ターゲット、見込事業者、販売戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット：観光客、市町村内在住者 ・販売戦略：自治体や観光協会と連携し、SNS や HP、チラシ等で PR を行う。



【収支モデル】

・事業規模想定試算

項目	数値	単位	備考
年間利用者数	5,700	人	県内漁協の資料より
客単価	3,500	円	各種体験/遊覧船/ダイビング施設等の単価を参考
売上金額	19,950,000	円	県内漁協の資料より

・事業規模収支想定試算

項目	金額	比率	備考
収入（売上）	19,950,000	100%	
1売上	19,950,000		県内漁協の資料を参考とした
支出	13,965,000	70%	支出の比率については、県内漁協の資料を参考とした
1事業費	9,975,000	50%	内訳：水道光熱費、消耗備品費、施設管理費、雑費等
2事業管理費	3,990,000	20%	内訳：給料手当、法定福利費、福利厚生費
営業利益	5,985,000	30%	

(4)千葉県における海業の推進体制

海業を効果的に推進し、漁村地域の活性化に繋げていくためには、海業を主体的に進める漁協・漁業者を中心に、地元市町村、県、関係団体(県漁連、観光協会、商工会、観光地域づくり法人等の中間支援組織、大学等)、民間企業等が連携し取組を進めていく必要がある。

これを踏まえ、各主体の取組の方向性と推進体制を以下のとおり整理する。

○漁協・漁業者の取組

- ・市町村や県、観光協会等との連携により 地域資源を有効活用・管理し海業に取り組む。
- ・積極的に民間企業等と連携し、観光客や来訪者のニーズを捉えた海業に取り組む。
- ・漁港管理者と連携し、漁港施設の利用状況を見直し、海業への展開可能性を検討する。
- ・海業の担い手やリーダーとなる人材の育成に努める。
- ・持続的な漁業・海業に向け、資源管理や漁業・漁港を核とした地域活性化に取り組む。

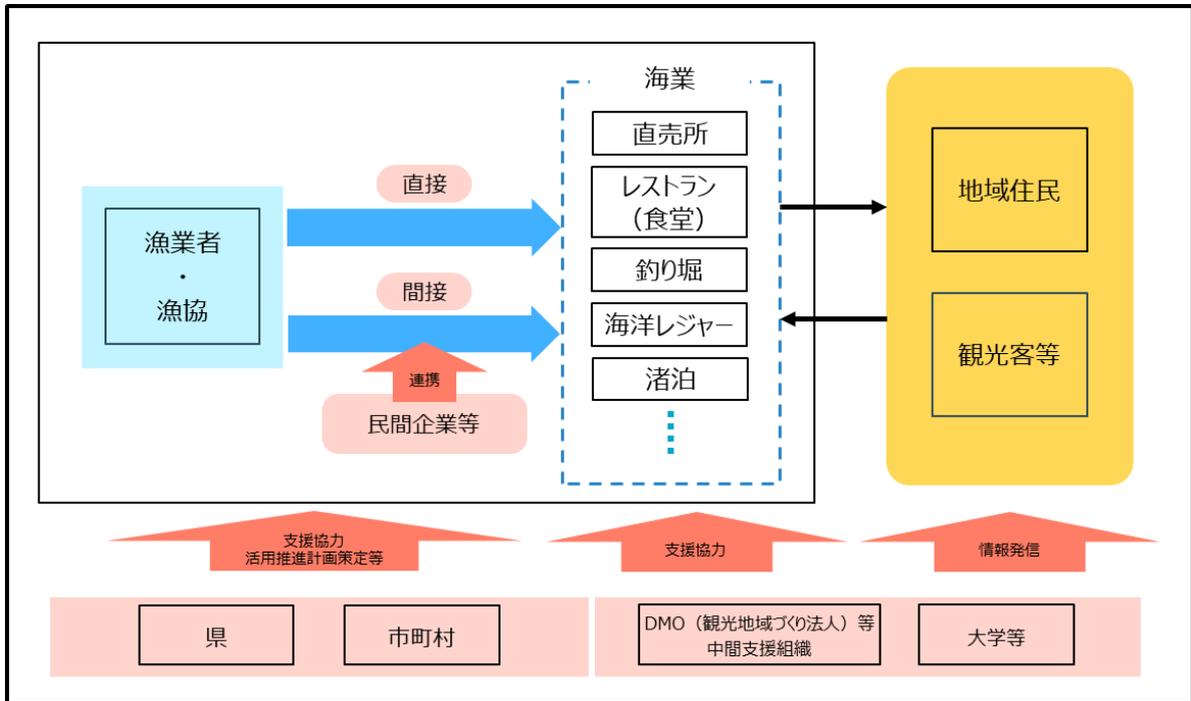
○市町村等の取組

- ・地域協議会の設置・運営や広域的な海業の取組を支援する。
- ・漁協・漁業者と民間企業等外部の主体との連携を支援し、漁協・漁業者が海業に取り組みやすい環境をつくり、地域の活性化につなげる。
- ・漁港施設等活用推進制度を活用し、漁港施設等の効率的な利用を促進する。
- ・地域住民や来訪者に向けて海や漁村の魅力を発信する。
- ・漁協・漁業者による資源管理や漁業・漁港を核とした地域活性化、担い手の確保・育成を支援する。

○県の取組

- ・市町村等と連携し、地域協議会の設置・運営や広域的な海業の取組を支援する。
- ・研修会の開催や、相談窓口の設置、漁協・漁業者と民間企業とのマッチング等、伴走支援を実施する。
- ・漁港施設等活用推進制度を活用し、漁港施設等の効率的な利用を促進する。
- ・漁村の魅力発信等、県内各地域の海業推進に向けた広報を実施する。
- ・市町村等と連携し、漁協・漁業者による資源管理や漁業・漁港を核とした地域活性化、担い手の確保・育成を支援する。

千葉県海業推進体制のイメージ



おわりに

本構想は、学識経験者や漁業代表者からなる「千葉県海業基本構想検討会」での意見を踏まえ、今後の海業を推進するための全体的な方向性をまとめたものである。

今後、本構想を参考に地域における関係者協議、事業化検討及び計画策定等が行われ、順次、事業者が具体的な取組を実施し、さらには漁村地域が活性化していくことが期待される。

千葉県海業推進基本構想

令和7年 月

千葉県農林水産部水産局水産課

〒260-8667 千葉市中央区市場町 1-1 本庁舎 18 階

電話番号:043-223-3051

ファックス番号:043-221-3425